

資料 2 県民アンケートの結果分析

1 アンケート調査の概要

今回の地震被害想定調査において実施した、神奈川県民を対象としたアンケート調査の概要を示す。

- ①実施時期：令和6年2月13日～15日、21日～22日
- ②調査方法：インターネット調査（Web調査）
- ③調査対象者：Web調査会社の神奈川県下の登録モニターに対して回答を求め、津波浸水危険域については、回答者の住所（70町界、郵便番号付き）で判別した。
- ④前提とする地震災害：大正型関東地震
- ⑤調査の目的：地震被害想定調査に関係する以下の項目を目的として実施した。
 - ・被害量・対策需要量想定
 - ・県民全体の災害時の行動（県民の予想される平均的な対応行動）の把握
 - ・次期地震防災戦略策定等に係る県民の災害対応の把握

(1) 全県調査

神奈川県民（全県）を対象に回収目標を2,000人として、2月13日～15日にかけて2,215人から回答を得て中間報告とした。さらに、地区人口、性別、年代（18歳以上上限なし）比に配慮するため、21日～22日にかけて追加調査を実施し、合計8,293人から回答を得た。最終的に、地区人口、性別、年代（18歳以上）比により対象を2,888人に絞り込んだ。

全県の地区別回収数（率）は以下のとおりであり、下段に神奈川県内の地区別人口比を示した。なお、ここでの「全県」とは、津波浸水区域外を対象としている。

地区別回収数	n	横浜市	川崎市	相模原市	横須賀三浦	県央	湘南	県西
全県 (回答数)	2,888	1,154	499	246	226	282	378	103
(%)	100.0	40.0	17.3	8.5	7.8	9.8	13.1	3.6
全県地区別人口比 (%)	100.0	40.9	16.7	7.9	7.3	9.4	14.3	3.6

(2) 津波危険区域調査

1) 対象地区の選定方法

以下の地区を地図上に示し、対象となる地区を特定した。

- ・神奈川県沿岸部の大正関東地震津波浸水想定区域の居住者※1
- ・最大浸水域が想定される5地震の津波浸水想定区域居住者※2
- ・上記に該当しない市町の沿岸部居住者

計 70町界

※1 大正関東地震津波で津波被害が発生すると想定される浸水高30cm以上の町丁目

※2 最大波となる5地震の津波浸水想定図で30cm以上浸水する建物の割合が45%以上の町丁目

2) 対象者数：回収目標を500人とし、2月13日～15日にかけて533人から回答を得た。

津波予報区別では、津波予報区「相模湾・三浦半島」423人、津波予報区「東京湾内湾」110人の計533人であり、市町別では以下の回収数となった。地区別では、藤沢市125人、横浜市97人の回答が多かった。

また、全県及び津波浸水危険域の回答者の性別、年代別回収数を次に示す。津波浸水危険域の回答者は、男性が63%と多く、年代別では50代と60代の回答が多かった。

上段：回答数 下段：%	市町村別 回収数 n	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	鎌倉市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市	三浦市	葉山町	大磯町	二宮町	真鶴町	湯河原町
津波危険区域	533 100.0	97 18.2	6 1.1	80 15.0	13 2.4	62 11.6	125 23.5	16 3.0	18 3.4	33 6.2	11 2.1	19 3.6	20 3.8	11 2.1	12 2.3	10 1.9

上段：回答数 下段：%	n	性別			年代						
		男性	女性	その他/ 答えたくない	18-19 歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
津波危険区域	533 100.0	336 63.0	194 36.4	3 0.6	0 0.0	9 1.7	37 6.9	100 18.8	167 31.3	135 25.3	85 15.9
全県	2888 100.0	1506 52.1	1360 47.1	22 0.8	29 1.0	301 10.4	341 11.8	483 16.7	680 23.5	470 16.3	584 20.2
全県人口比 (%)	100.0	49.6	50.4	—	2.1	12.8	13.1	17.0	18.2	12.6	24.1

2 アンケート調査結果

(1) 防災対策全般

各種防災対策について、津波危険区域内外での実施状況の違いを比較した。津波危険区域内の県民が「神奈川県津波浸水危険図（津波ハザードマップ）で自宅の津波危険を確認」する割合は、区域外の県民より約17%も高い結果となり、居住地域の津波危険性について一定割合認知されていることがわかる。津波危険区域内の県民は、「市町村が発行している防災マップで災害危険や避難路・避難所・避難場所を確認」や「地震直後の避難について家族の話し合い」、「地震保険や地震共済保険等への加入」についても区域外の県民よりも実施している割合が高い。一方で、津波避難区域からの避難のため一定期間自宅を離れるケースが想定されるとともに、津波危険区域内では初期消火が困難になるが、「非常持ち出し品、非常用備蓄、買い置きの準備・点検」や「感震ブレーカーの設置」については、津波危険区域外の県民の方が取り組んでいる割合が若干高い結果となった。

表 2.1 津波危険区域内外の住民における防災対策の実施状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	非常持ち出し品、非常用備蓄 買い置き の準備・点検	消火器の設置・点検	風呂やペットボトルなどに 水をため置きしている	感震ブレーカーの設置	停電対策(電気自動車や太陽光発電、 自家発電機などの設置)	地震時の家族の連絡方法や避難先に ついでの話し合い	神奈川県 の津波浸水危険図(津波 ハザードマップ)で自宅の津波危険を確認	市町村が発行している防災マップで災害 危険や避難路・避難所・避難場所を確認	地震直後の避難について家族の話し合 い	地震保険や地震共済保険等への加入	その他 具体的に…
全体		3421 100.0	1936 56.6	793 23.2	1173 34.3	245 7.2	296 8.7	684 20.0	948 27.7	1184 34.6	618 18.1	1106 32.3	106 3.1
割付	津波危険 区域	533 100.0	289 54.2	109 20.5	178 33.4	26 4.9	43 8.1	107 20.1	222 41.7	209 39.2	106 19.9	196 36.8	22 4.1
	全県	2888 100.0	1647 57.0	684 23.7	995 34.5	219 7.6	253 8.8	577 20.0	726 25.1	975 33.8	512 17.7	910 31.5	84 2.9

単身世帯と家族世帯で比較をすると、家族との話し合いは当然であるが、そのほかの多くの対策について家族世帯の方が実施している割合が高い結果となった。「市町村が発行している防災マップで災害危険や避難路・避難所・避難場所を確認」についてのみ、単身世帯がやや高い結果となった。

幼児や高齢者、避難行動要支援者などをまとめて要配慮者の有無で比較をすると、「非常持ち出し品、非常用備蓄、買い置き
の準備・点検」や「停電対策(電気自動車や太陽光発電、自家発電機などの設置)」、「神奈川県
の津波浸水危険図(津波ハザードマップ)で自宅の津波危険を確認」、「地震直後の避難について家族の話し合い」について、要配慮者ありの世帯の方が対策を実施している割合が高い結果となった。自宅等で避難をするために必要となる対策については、要配慮者ありの世帯の方が対策を実施している割合と言えるのではないかと。

表 2.2 単身世帯・家族世帯の住民における防災対策の実施状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	非常持ち出し品、非常用備蓄 買い置き の準備・点検	消火器の設置・点検	風呂やペットボトルなどに 水をため置きしている	感震ブレーカーの設置	停電対策(電気自動車や太陽光発電、 自家発電機などの設置)	地震時の家族の連絡方法や避難先に ついでの話し合い	神奈川県 の津波浸水危険図(津波 ハザードマップ)で自宅の津波危険を確認	市町村が発行している防災マップで災害 危険や避難路・避難所・避難場所を確認	地震直後の避難について家族の話し合 い	地震保険や地震共済保険等への加入	その他 具体的に…
全体		3421 100.0	1936 56.6	793 23.2	1173 34.3	245 7.2	296 8.7	684 20.0	948 27.7	1184 34.6	618 18.1	1106 32.3	106 3.1
割付	単身世帯	541 100.0	236 43.6	104 19.2	149 27.5	26 4.8	22 4.1	48 8.9	141 26.1	195 36.0	32 5.9	127 23.5	36 6.7
	家族世帯	2880 100.0	1700 59.0	689 23.9	1024 35.6	219 7.6	274 9.5	636 22.1	807 28.0	989 34.3	586 20.3	979 34.0	70 2.4

表 2.3 要配慮者の有無による防災対策の実施状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	非常持ち出し品、非常用備蓄 買い置き の準備・点検	消火器の設置・点検	風呂やペットボトルなどに 水をため置きしている	感震ブレーカーの設置	停電対策（電気自動車や太陽光発電、 自家発電機などの設置）	地震時の家族の連絡方法や避難先に ついでの話し合い	神奈川県津波浸水危険図（津波 ハザードマップ）で自宅の津波危険を確認	市町村が発行している防災マップで災害 危険や避難路・避難所・避難場所を確認	地震直後の避難について家族の話し合 い	地震保険や地震共済保険等への加入	その他 具体的に…
全体		3421 100.0	1936 56.6	793 23.2	1173 34.3	245 7.2	296 8.7	684 20.0	948 27.7	1184 34.6	618 18.1	1106 32.3	106 3.1
割 付	要配慮者なし	3267 100.0	1839 56.3	770 23.6	1129 34.6	241 7.4	277 8.5	655 20.0	897 27.5	1145 35.0	585 17.9	1058 32.4	105 3.2
	要配慮者あり	154 100.0	97 63.0	23 14.9	44 28.6	4 2.6	19 12.3	29 18.8	51 33.1	39 25.3	33 21.4	48 31.2	1 0.6

(2) 食料・飲料の備蓄状況、非常持ち出し品の準備状況

食料・飲料の備蓄状況、非常持ち出し品の準備状況については、食料や飲料水の買い置き、簡易トイレや携帯トイレの備蓄状況について、津波危険区域内外でほとんど有意な差はなかった。

食料や飲料水については約3割の県民が3日程度の備蓄は行っていることがわかった。1週間近い備蓄を行っている県民も15%程度いる。

簡易トイレ・携帯トイレについては、3日以上備蓄している県民は35%程度にとどまったほか、1日分も備蓄していない県民が約4割いることがわかった。

表 2.4 津波危険区域内外の住民における食料等の備蓄日数の比較

上段：回答数 下段：%		n	1日	2日	3日	4 ～ 5日	6 ～ 7日	8日 以上	食料や飲料水の 買い置きはほとんどない (1日と持たない)
全体		3421 100.0	210 6.1	594 17.4	1176 34.4	612 17.9	377 11.0	165 4.8	287 8.4
割 付	津波危険区域	533 100.0	40 7.5	89 16.7	192 36.0	86 16.1	56 10.5	24 4.5	46 8.6
	全県	2888 100.0	170 5.9	505 17.5	984 34.1	526 18.2	321 11.1	141 4.9	241 8.3

表 2.5 津波危険区域内外の住民におけるトイレの備蓄日数の比較

上段：回答数 下段：%		n	1日	2日	3日	4～5日	6～7日	8日以上	簡易トイレや携帯トイレは準備していない(1日と持たない)
全体		3421 100.0	391 11.4	519 15.2	655 19.1	300 8.8	157 4.6	108 3.2	1291 37.7
割付	津波危険区域	533 100.0	61 11.4	81 15.2	103 19.3	48 9.0	21 3.9	16 3.0	203 38.1
	全県	2888 100.0	330 11.4	438 15.2	552 19.1	252 8.7	136 4.7	92 3.2	1088 37.7

(3) 家具・家電等の固定率

家具・家電の固定率については、津波危険区域内外で比較しても、大きな違いはなかった。

表 2.6 津波危険区域内外の住民における家具の固定状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	全部または大部分を固定している	一部のみ固定している	固定していない	ほとんど通り付けなので固定する必要がある	その他 具体的に…
全体		3421 100.0	290 8.5	1543 45.1	1476 43.1	111 3.2	1 0.0
割付	津波危険区域	533 100.0	40 7.5	237 44.5	237 44.5	19 3.6	0 0.0
	全県	2888 100.0	250 8.7	1306 45.2	1239 42.9	92 3.2	1 0.0

既婚者・未婚者で比較をすると、「全部または大部分を固定している」は既婚者が約10%に対し、未婚者は約5%、「一部のみ固定している」は既婚者が約50%に対し、未婚者は約40%となり、未婚者の対策が進んでいない状況がわかる。単身世帯と家族世帯の比較も近い傾向を示しており、「全部または大部分を固定している」は家族世帯が約9%に対し、単身世帯は約4%、「一部のみ固定している」は家族世帯が約50%に対し、単身世帯は約30%となった。

未婚者あるいは単身世帯に対する啓発が特に必要であるが、既婚者あるいは家族世帯についても、固定していない割合は4割近くおり、必ずしも家具・家電の固定率が高いわけではない。

表 2.7 既婚・未婚の住民における家具の固定状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	全部または大部分を 固定している	一部のみ固定 している	固定していない	ほとんど造り付け などで固定する 必要がない	その他 具体的に…
全体		3421 100.0	290 8.5	1543 45.1	1476 43.1	111 3.2	1 0.0
割付	既婚	2236 100.0	232 10.4	1083 48.4	852 38.1	69 3.1	0 0.0
	未婚	1185 100.0	58 4.9	460 38.8	624 52.7	42 3.5	1 4.9

表 2.8 単身・家族世帯の住民における家具の固定状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	全部または大部分を 固定している	一部のみ固定 している	固定していない	ほとんど造り付け などで固定する 必要がない	その他 具体的に…
全体		3421 100.0	290 8.5	1543 45.1	1476 43.1	111 3.2	1 0.0
割付	単身世帯	541 100.0	24 4.4	160 29.6	334 61.7	22 4.1	1 0.2
	家族世帯	2880 100.0	266 9.2	1383 48.0	1142 39.7	89 3.1	0 0.0

(4) 防災訓練等参加率

津波危険区域の県民においては地域の津波避難訓練参加者が2割弱であった。そのほか、津波危険区域内外とも火災避難訓練の参加率は1割強、津波危険区域外の県民のみ、初期消火訓練と応急救護訓練の参加率も1割強であったが、その他の訓練は軒並み1割未満の参加率となった。この数年防災訓練に参加していない県民も7割近くいる。

表 2.9 津波危険区域内外の住民における防災訓練等の参加状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	地域の津波避難訓練	火災避難訓練	初期消火訓練	救出・救助訓練	応急救護訓練・AEDを 使った心肺蘇生訓練	負傷者の搬送訓練	避難所開設・運営訓練	帰宅困難者対策訓練 (徒歩帰宅訓練)	シエイクアウト訓練	防災に関するワーク シヨップやゲームなど	その他 具体的に…	この数年、防災訓練に 参加していない
全体		3421 100.0	190 5.6	403 11.8	354 10.3	98 2.9	359 10.5	64 1.9	109 3.2	29 0.8	55 1.6	82 2.4	33 1.0	2437 71.2
割付	津波危険 区域	533 100.0	93 17.4	61 11.4	45 8.4	5 0.9	44 8.3	12 2.3	14 2.6	3 0.6	9 1.7	18 3.4	3 0.6	355 66.6
	全県	2888 100.0	97 3.4	342 11.8	309 10.7	93 3.2	315 10.9	52 1.8	95 3.3	26 0.9	46 1.6	64 2.2	30 1.0	2082 72.1

建て方、住まい方別に見ると、中高層・超高層住宅に住む県民は、火災避難訓練、初期消火訓練への参加率が他の訓練参加率と比較して若干高い。また、持ち家の県民の方が全ての訓練において賃貸住宅に住む県民より参加率が若干高い。

表 2.10 建て方・住まい方の違いによる防災訓練等の参加状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	地域の津波避難訓練	火災避難訓練	初期消火訓練	救出・救助訓練	応急救護訓練・AEDを使った心肺蘇生訓練	負傷者の搬送訓練	避難所開設・運営訓練	帰宅困難者対策訓練 (徒歩帰宅訓練)	シエイクアウト訓練	防災に関するワーク シヨップやゲームなど	その他 具体的に…	この数年、防災訓練に参加していない
全体		3421 100.0	190 5.6	403 11.8	354 10.3	98 2.9	359 10.5	64 1.9	109 3.2	29 0.8	55 1.6	82 2.4	33 1.0	2437 71.2
割付	戸建て・低層住宅	2065 100.0	140 6.8	203 9.8	195 9.4	61 3.0	216 10.5	45 2.2	83 4.0	21 1.0	41 2.0	49 2.4	21 1.0	1482 71.8
	中高層・超高層住宅	1332 100.0	49 3.7	196 14.7	157 11.8	37 2.8	141 10.6	19 1.4	26 2.0	7 0.5	14 1.1	33 2.5	12 0.9	936 70.3
	持ち家	2519 100.0	168 6.7	319 12.7	298 11.8	81 3.2	292 11.6	52 2.1	97 3.9	22 0.9	43 1.7	66 2.6	28 1.1	1734 68.8
	賃貸	878 100.0	21 2.4	80 9.1	54 6.2	17 1.9	65 7.4	12 1.4	12 1.4	6 0.7	12 1.4	16 1.8	5 0.6	684 77.9

(5) 自主防災活動参加率

自主防災活動参加率を見ると、津波危険区域内外で大きな差はなかった。「入っていない」という回答が最も多く約3割、「入っているが、活動していない」という回答が25%~30%となり、「自主防災組織がない又は自主防災組織があるかどうかわからない」、「町内会（自治会）がない」を加えると8割近くの県民が自主防災組織や町内会（自治会）に不参加あるいは活動を行っていないことが明らかとなった。

表 2.11 津波危険区域内外の住民における自主防災組織の参加・活動状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	入っており、活発に活動している	入っており、ある程度活動している	入っているが、活動していない	入っていない	自主防災組織がない又は自主防災組織があるかどうかわからない	町内会（自治会）がない（町内会や自治会に入っていない）
全体		3421 100.0	76 2.2	577 16.9	866 25.3	1038 30.3	645 18.9	219 6.4
割付	津波危険区域	533 100.0	15 2.8	91 17.1	156 29.3	154 28.9	94 17.6	23 4.3
	全県	2888 100.0	61 2.1	486 16.8	710 24.6	884 30.6	551 19.1	196 6.8

建て方、住まい方別に見ると、戸建て・低層住宅と中高層・超高層住宅の間では、戸建て・低層住宅に住む県民の方が、自主防災組織への参加率は高いが、活動状況はほぼ変わらない結果となった。一方、持ち家と賃貸の比較では、持ち家の県民は自主防災組織への参加率が5割を超え、一定程度活動を行っている人も2割を超えたのに対し、賃貸住宅に住む県民は、自主防災組織への参加率が2割に達せず、一定程度の活動を行っている人は5%程度にとどまった。

表 2.12 建て方・住まい方の違いによる自主防災組織の参加・活動状況の比較

上段：回答数 下段：%		n	入っており、活発に活動している	入っており、ある程度活動している	入っているが、活動していない	入っていない	自主防災組織がない又は自主防災組織があるかどうかわからない	町内会（自治会）がない（町内会や自治会に入っていない）
全体		3421 100.0	76 2.2	577 16.9	866 25.3	1038 30.3	645 18.9	219 6.4
割付	戸建て・低層住宅	2065 100.0	56 2.7	351 17.0	560 27.1	628 30.4	359 17.4	111 5.4
	中高層・超高層住宅	1332 100.0	20 1.5	224 16.8	300 22.5	403 30.3	281 21.1	104 7.8
割付	持ち家	2519 100.0	69 2.7	535 21.2	750 29.8	653 25.9	428 17.0	84 3.3
	賃貸	878 100.0	7 0.8	40 4.6	110 12.5	378 43.1	212 24.1	131 14.9

3 大地震発生時の対応行動

(1) 大地震発生時の対応行動－深夜－

深夜に大地震が発生した直後にどのような行動を取るか聞いたところ、真っ先に取る行動として、「自宅内や周囲にいる家族などの無事を確認する」や「家族の身を守ってかばう」が多く挙げられた。津波危険区域内外で傾向は近い結果となったが、「火の元を確認したり、火の始末をする」と「懐中電灯やスマートフォンなどを探し、灯りをとる」については津波危険区域内の県民の方がやや高い結果となった。

次にする行動としては、津波危険区域内では「テレビやラジオ、スマートフォン、インターネットなどで地震や津波に関する情報を入手する」や「外への出口を確保する」が多く挙げられた。津波危険区域外では「外への出口を確保する」や「けがをしないようにスリッパや靴などの履物を履く」が多く挙げられた。

少し余裕が出たらする行動としては、津波危険区域内外とも「室内に散らばったものなどの後片づけをする」が最も多い回答となった。津波危険区域内においても迅速な避難ではなく、後片づけをしてからという意識を持つ県民が多いことがわかる。そのほか、「電話やメール、SNSなどで、離れた場所にいる家族や親戚・知人の安否を確認する」や「近所の様子を見に行く」も津波危険区域内外ともにおいて多く挙げられた。

表 3.1 大きな地震直後の対応行動—津波浸水危険域住民と全県住民—

上段：回答数 下段：%	津波危険区域 (n=533)				全県 (n=2,888)			
	真っ先に する	次に する	少し余裕が 出たら する	しない	真っ先に する	次に する	少し余裕が 出たら する	しない
1.自宅内や周囲にいる家族などの無事を確認する	387 72.6	51 9.6	60 11.3	35 6.6	2083 72.1	293 10.1	336 11.6	176 6.1
2.家族の身を守ってかばう	313 58.7	103 19.3	50 9.4	67 12.6	1625 56.3	580 20.1	331 11.5	352 12.2
3.外への出口を確保する	220 41.3	185 34.7	113 21.2	15 2.8	1111 38.5	1082 37.5	605 20.9	90 3.1
4.外へ飛び出す	53 9.9	138 25.9	224 42.0	118 22.1	273 9.5	712 24.7	1281 44.4	622 21.5
5.火の元を確認したり、火の始末をする	287 53.8	131 24.6	92 17.3	23 4.3	1347 46.6	817 28.3	587 20.3	137 4.7
6.懐中電灯やスマートフォンなどを探し、灯りをとる	256 48.0	177 33.2	92 17.3	8 1.5	1201 41.6	955 33.1	650 22.5	82 2.8
7.電話やメール、SNSなどで、離れた場所にいる家族や親戚・知人の安否を確認する	61 11.4	95 17.8	343 64.4	34 6.4	385 13.3	534 18.5	1792 62.0	177 6.1
8.テレビやラジオ、スマートフォン、インターネットなどで地震や津波に関する情報を入手する	165 31.0	188 35.3	173 32.5	7 1.3	848 29.4	924 32.0	1039 36.0	77 2.7
9.けがをしないようにスリッパや靴などの履物を履く	167 31.3	173 32.5	175 32.8	18 3.4	841 29.1	1002 34.7	883 30.6	162 5.6
10.室内に散らばったものなどの後片づけをする	14 2.6	28 5.3	382 71.7	109 20.5	77 2.7	159 5.5	2135 73.9	517 17.9
11.避難の際に必要なものや非常持出し品を準備する	63 11.8	174 32.6	268 50.3	28 5.3	324 11.2	894 31.0	1486 51.5	184 6.4
12.自宅の被害状況を確認する	69 12.9	112 21.0	327 61.4	25 4.7	313 10.8	695 24.1	1707 59.1	173 6.0
13.近所の様子を見に行く	15 2.8	50 9.4	335 62.9	133 25.0	58 2.0	271 9.4	1805 62.5	754 26.1
14.その他 具体的に記入：	36 13.3	25 9.3	53 19.6	156 57.8	122 9.2	108 8.1	291 21.9	805 60.7

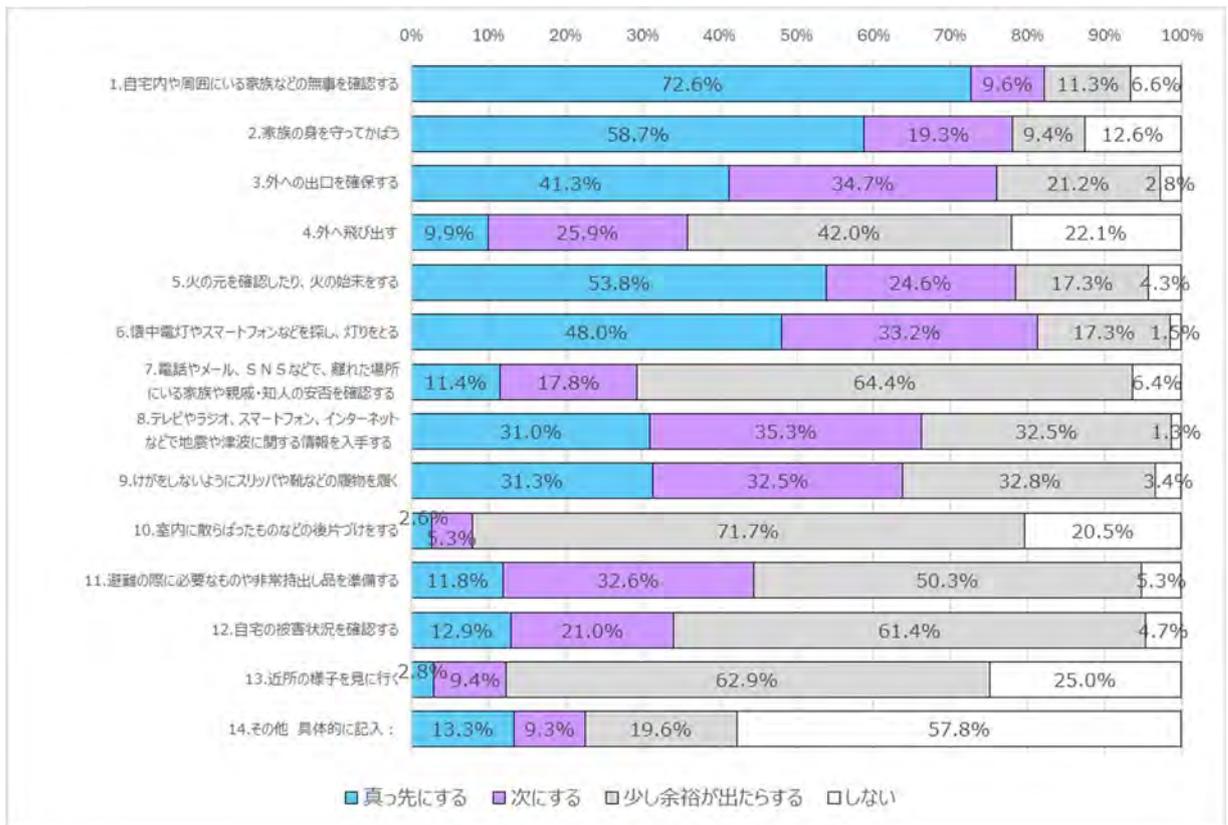


図 3.1 大きな地震直後の対応行動—深夜—津波浸水危険域住民

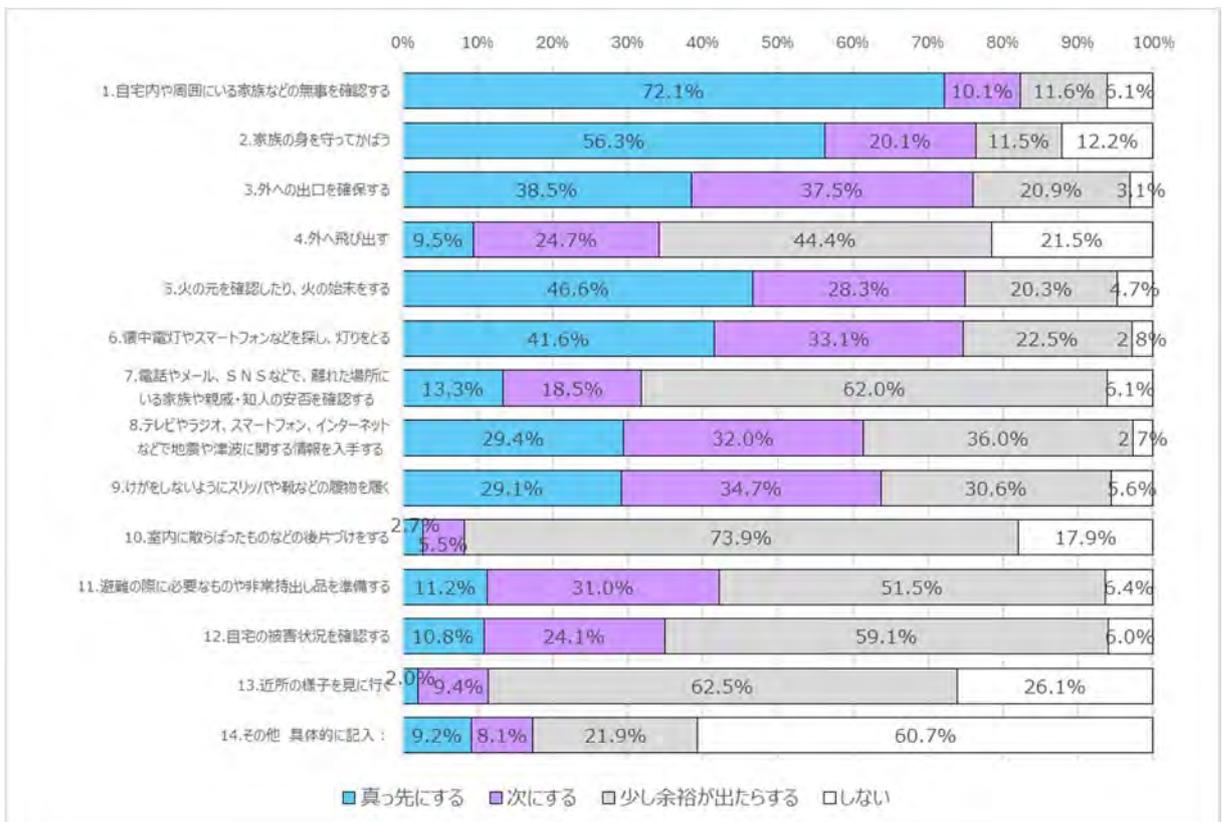


図 3.2 大きな地震直後の対応行動—深夜—全県住民

(2) 大地震発生時の対応行動－平日の昼間－

全県住民に対し、平日昼間の対応行動について質問したところ、「自宅の被害状況の確認」、「家族の帰りを待つ」の順で、「余震や火災、地盤災害を恐れての避難」が続いており、74%の人が避難を考えていた。食料品や雑貨等の買い出し行動も83%の人が考えていた。「職場に行く」人は14%と少ない。

表 3.2 大地震発生時の対応行動－平日の昼間・全県調査－

上段：回答数 下段：%	n	に真 つ先 する	次 に する	が少 し余 裕 が出 たら する	し な い
1.自宅の被害状況を確認する	1518 100.0	629 41.4	368 24.2	487 32.1	34 2.2
2.近所の様子を見に行く	1518 100.0	41 2.7	304 20.0	922 60.7	251 16.5
3.海や川の様子を見に行く	1518 100.0	17 1.1	55 3.6	228 15.0	1218 80.2
4.近くに住む親や親戚・知人などの様子を見に行く	1518 100.0	50 3.3	194 12.8	719 47.4	555 36.6
5.家族が帰ってくるのを待つ	1518 100.0	251 16.5	468 30.8	459 30.2	340 22.4
6.職場に向かう	1518 100.0	10 0.7	36 2.4	169 11.1	1303 85.8
7.幼稚園や保育所、学校などに子供を迎え（引き取り）に行く	1518 100.0	134 8.8	128 8.4	144 9.5	1112 73.3
8.近くの食料品店や雑貨店などで必要なものを買う	1518 100.0	77 5.1	254 16.7	922 60.7	265 17.5
9.余震や火災、地盤災害などの危険があるので、自宅から避難する	1518 100.0	211 13.9	361 23.8	549 36.2	397 26.2
10.その他の行動をとる 具体的に記入：	400 100.0	72 18.0	57 14.3	75 18.8	196 49.0

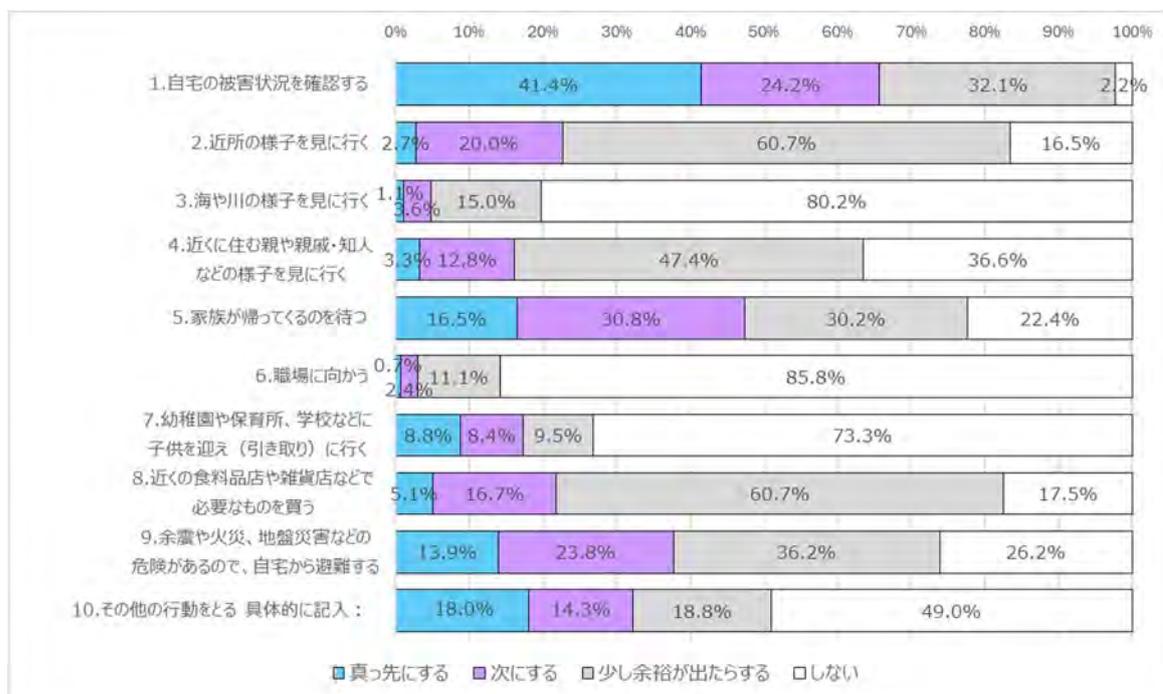


図 3.3 大地震発生時の対応行動－平日の昼間・全県調査－

(3) 大地震発生時の避難行動－要配慮者の有無－

全県住民に対し、家庭内に要配慮者がいるかどうかに応じて、どのような避難行動を取るか質問したところ、小学生を持つ家庭では、「指定避難所・避難場所」に避難する回答の割合が若干多かったほか、3歳以下の幼児や小学生、75歳以上の人がある家庭では、自宅を片付けて過ごす割合が他よりも低いことがわかる。また、日常生活において要介護の人は、「指定避難所・避難場所」に避難する割合は要配慮者がいない人と比較してあまり差異はないが、「自宅の敷地内またはその付近」が10.1%、「被災地域外の親戚・知人宅等」が4.7%と他よりも多い割合となった。3歳以下の幼児、75歳以上の人、日常生活で要介護の人、避難の際支援を必要とする人がある家庭では、「近くの公園等での野営・車中泊」と「自宅の敷地内またはその付近」（野営または車中泊）の割合の合計が15%近くになり、他の回答者よりもやや多い傾向が見られる。（表3.3、図3.4）

生活においてケアが必要となる方がいる家庭が被災地域外の親戚・知人宅等へ避難できるような移動環境を支援すること、被災地域外への避難が難しい場合、自宅や周辺で車中泊などを行う際の支援物資の支給や医療的ケアの支援が課題となると考えられる。

また、何らかの要配慮者が家庭にいる場合に、指定避難所に行かない理由を質問したところ、理由として多いのは、「プライバシー面の不安」、「人が多く狭いから」が最も多く約14%の人から回答があった。次いで、「感染症などの衛生面の不安」（10.6%）、「トイレが使いにくいから」（9.0%）、「雑魚寝ではよく眠れないから」（9.0%）となり（図3.5）、こうした不安や不便を抑制した福祉避難所の整備とともに、要配慮者がいても避難所で過ごしやすくするように、プライバシーの確保や感染症対策の強化、段ボールベッドの備蓄などの取組みを進めることが重要であることがアンケートからも得られた。

表 3.3 大地震発生時の避難行動－要配慮者の有無・全県調査－

上段：回答数 下段：%	n	指定避難所・ 避難場所	近くの公園等での 野営・車中泊	自宅の敷地内 またはその付近	親戚・知人宅等 自宅近くの 等	ホテル・旅館等 自宅近くの 等	近くの民間施設・ ビル等	勤務先の施設	親戚・知人宅等 被災地域外の 等	被災地域外の 宿泊施設	その他	自宅を片付けて 過ごす
1. 3歳以下の幼児	135 100.0	89 65.9	7 5.2	12 8.9	11 8.1	2 1.5	1 0.7	2 1.5	1 0.7	0 0.0	1 0.7	9 6.7
2. 4歳以上で就学前の児童	94 100.0	62 66.0	6 6.4	5 5.3	6 6.4	1 1.1	1 1.1	1 1.1	1 1.1	0 0.0	1 1.1	10 10.6
3. 小学生	206 100.0	147 71.4	15 7.3	10 4.9	13 6.3	4 1.9	1 0.5	0 0.0	0 0.0	1 0.5	0 0.0	15 7.3
4. 75歳以上の人	427 100.0	285 66.7	33 7.7	29 6.8	18 4.2	12 2.8	5 1.2	5 1.2	8 1.9	0 0.0	5 1.2	27 6.3
5. 日常生活で要介護の人	129 100.0	85 65.9	7 5.4	13 10.1	2 1.6	1 0.8	0 0.0	0 0.0	6 4.7	0 0.0	1 0.8	14 10.9
6. 避難の際支援を必要とする人	86 100.0	54 62.8	7 8.1	7 8.1	3 3.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.3	1 1.2	2 2.3	10 11.6
7. 要配慮者はいない	2026 100.0	1308 64.6	118 5.8	93 4.6	94 4.6	31 1.5	30 1.5	37 1.8	37 1.8	19 0.9	16 0.8	243 12.0

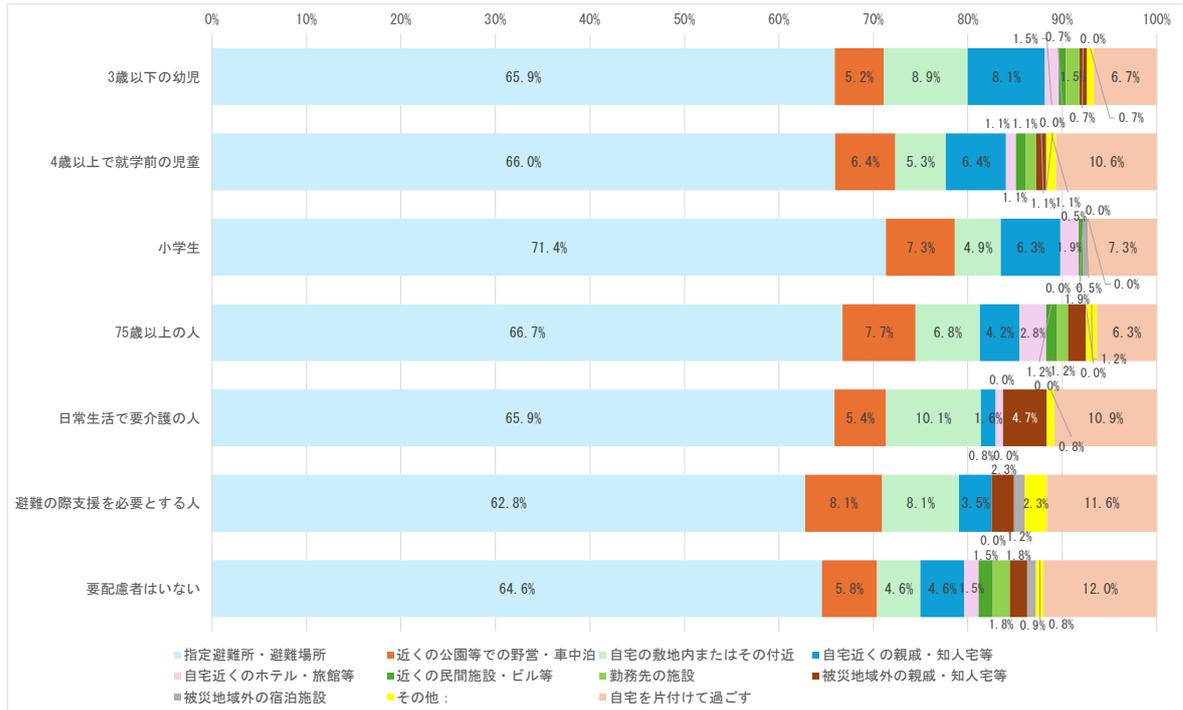


図 3.4 大地震発生時の避難行動—要配慮者の有無・全県調査—

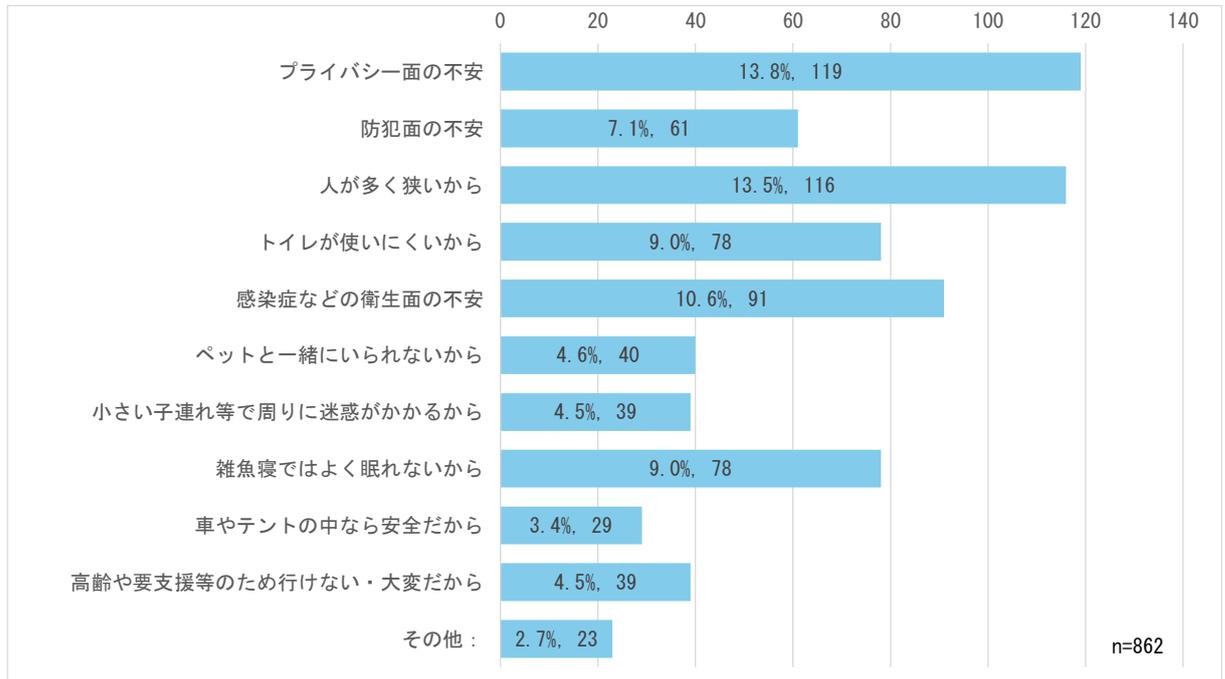


図 3.5 要配慮者が家族にいる人が避難所に行かない理由

4 津波避難開始時間を左右する要因の分析

①早期避難（5分以内）を行なう要因

早期避難を行う者は 30.2%であったが、男女別にみると男性が 38.0%であるのに対し、女性が 16.7%と半数以下であった。

職業別にみると自営業者や学生が高いのに対し、主婦・主夫（専業またはパート）は低い傾向がみられた。

地震対策として、防災マップで災害危険や避難路・避難所・避難場所を確認している人(33.9%)や地震直後の避難について家族の話し合いをしている人(40.4%)は早期避難の割合が高い傾向が見られたほか、地域の自主防災組織に入っており、活発に活動している人(45.5%)にも早期避難の割合が高い傾向が見られた。

避難時の持ち物が1～2と少ない人(41.1%)の方が早期避難の割合が高い傾向が見られ、持ち物が多い人ほど遅くなる傾向が見られた。特に、薬、ペット、下着・防寒着、預金通帳・印鑑を持って行く人が遅れる傾向が見られた。また、持って行く品目の数も女性の方が多く（図 4.1）、これが女性の早期避難率を低くしている要因となっている。

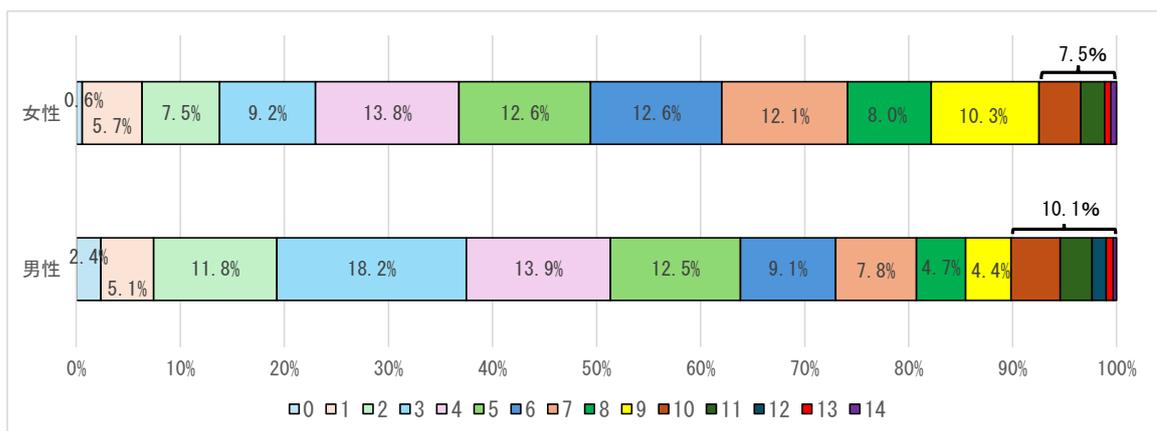


図 4.1 避難意向のある人について、男女別の避難時の持ち物数（平均：男性 5.0 品目、女性 5.7 品目）

早期避難を行なう人の津波避難のタイミングについて、「できるだけ早く避難」と回答した方は 39.3%、「津波注意報」及び「津波警報・大津波警報」をきっかけにと回答した方は 56.6%、「家族や近所の人」が避難したら」と回答した方は 27.3%おり、一人ひとりが早期避難の意識を持つことに加え、津波警報・注意報等の迅速かつ着実な伝達を行なうこと、地域での避難の声掛けなども早期避難を実現させる要因となりうる。

地震直後の対応で「真っ先に」「外へ飛び出す」人の多く(49.0%)が早期避難をすると回答している。一方で、早期避難率に有意な差がないのは、以下の通りであった。

- ・年齢、居住年数、同居家族数、避難行動要支援者の有無、住居(建物)
- ・災害リスクの認識(津波に襲われる危険性の認識)
- ・地震対策(家具固定、食料等の備蓄、トイレ、非常持ち出し品、感震ブレーカー、家族の連絡方法等、津波ハザードマップによる自宅危険の確認、地震保険等加入、訓練参加)実施の有無
- ・地震発生直後の対応のうち「外へ飛び出す」を除いた 13 の対応行動

②平均避難開始時間を左右する要因

平均避難開始までの所要時間は13.9分であった。避難開始時間を左右する要因として、有意差があったのは以下の項目である。

性別で比較をすると、男性12.1分に対して女性は16.9分と長くかかっていた。また、中高層持家に住む人が12.8分であったのに対し、超高層持家の人は18.1分と長くかかっていた。家具固定の実施状況について「全部または大部分を固定している」人は9.6分、また「ほとんど造り付けなので固定する必要がない」人も10.7分と早くなっているが、家具固定を実施していない回答者は避難開始も遅かった。「地震直後の避難について家族、話し合い」をしている人が10.4分であるのに対して、していない人は14.8分と4.4分遅れており、防災意識が行動の違いに現れている。津波避難のタイミングに関して「できるだけ早く」避難する人は10.3分、津波注意報や津波警報をきっかけにする人は13.9分、大津波警報14.1分、市町村の避難指示19.5分、「家族や近所の人が避難したら」の人は27.2分と大幅に遅れており、自主的な避難や正確な情報に基づく避難を開始する人は比較的早い時間に開始するが、他人の動向に左右される人は遅くなる傾向が見られた。

また、避難の際、持って行くものによっても違いがある。1～2品目の人は10.3分に対して、3～4品目では12.7分、5～6品目は15.6分、7品目以上は15.8分かかると見込んでおり、持ち物が多いほど避難開始時間も遅れる傾向が見られた。特に、薬を持って行く人は17.1分、下着・防寒着は16.1分、預金通帳・印鑑は15.7分、入れ歯・眼鏡・コンタクトレンズは15.9分、保険証・マイナカードは15.0分、現金・財布は14.6分となっていて、持って行かない人より有意に長くなっている。日頃から持出袋等を用意しておくことで開始時間を早める対策が必要である。

表 4.1 津波避難開始までの所要時間と直後避難を左右する要因分析

分類		平均避難開始時間 (13.9分)			統計的 有意性	5分以内の避難開始割合 (全平均 30.2%)			統計的 有意性		
地域	東京湾内と相模湾内	東京湾内		相模湾内	△	東京湾内		相模湾内	△		
		15.0分	13.4分	25.0%		32.4%					
属性	性別	男性	女性		○	男性	女性		○		
		12.1分	16.9分	38.0%		16.7%					
	年齢	65歳未満	65歳以上		△	65歳未満	65歳以上		×		
		14.3分	12.6分	28.6%		34.7%					
	居住年数	5年未満	5-10年	10-20年	×	5年未満	5-10年	10-20年	△		
		13.3分	14.1分	13.9分		23.7%	36.8%	39.4%			
		20-30年	30年以上			20-30年	30年以上				
		13.5分	14.6分	26.4%		26.2%					
	職業	自営業等	勤め人	主婦・夫	×	自営業等	勤め人	主婦・夫	○		
		11.2分	13.7分	14.9分		43.5%	32.2%	17.4%			
		学生	無職			学生	無職				
		10.5分	14.4分	50.0%		30.0%					
	同居家族数	1人	2人	3人	×	1人	2人	3人	×		
		12.9分	15.0分	12.8分		28.0%	26.9%	31.4%			
4人		5人	6人以上	4人		5人	6人以上				
14.6分		13.2分	8.3分	33.8%		39.1%	66.7%				
家族内の要配慮者の有無	いる	いない		×	いる	いない		×			
	14.5分	13.6分	28.6%		31.0%						
住居、建物特性	戸建持家	戸建賃貸	低層持家	低層賃貸	○	戸建持家	戸建賃貸	低層持家	低層賃貸	×	
	13.8分	14.3分	8.3分	13.8分		31.2%	16.7%	50.0%	32.4%		
	中高層持家	中高層賃貸	超高層持家	超高層賃貸		中高層持家	中高層賃貸	超高層持家	超高層賃貸		
	12.8分	15.1分	18.1分	-		30.1%	22.9%	31.6%	-		
自宅災害リスク	津波来襲リスク認識の有無	認識あり	認識なし		×	認識あり	認識なし		×		
地震対策	家具固定	全部固定	一部固定	非固定	造り付け	△	全部固定	一部固定	非固定	造り付け	×
		9.6分	13.7分	15.0分	10.7分		41.7%	27.5%	30.2%	40.4%	
	食料、飲料水等の備蓄	1,2日備蓄	3-5日備蓄	6日以上備蓄		×	1,2日備蓄	3-5日備蓄	6日以上備蓄	×	
		13.8分	14.1分	12.9分	27.4%		31.0%	31.7%			
	トイレ備蓄	13.3分	13.9分	14.3分	×	24.2%	32.9%	32.1%	×		
		している	していない			している	していない				
	非常持出品の準備	13.8分	14.0分	×	30.6%	29.7%	×				
	感震ブレイク設置	12.2分	14.0分	×	21.7%	30.6%	×				
	家族との連絡方法相談	12.6分	14.2分	×	28.3%	30.7%	×				
	津波ハザードマップ確認	13.5分	14.1分	×	30.7%	29.9%	×				
	市町村の防災マップ確認	13.7分	14.0分	×	33.9%	27.9%	△				
	家族との話し合い	10.4分	14.8分	○	40.4%	27.5%	○				
	地域防災	自主防災活動への参加	加入、活発参加	加入、程度参加		△	加入、活発参加	加入、程度参加		△	
			8.5分	12.3分	45.5%		37.3%				
加入のみ			未加入	加入のみ	未加入						
13.4分		15.4分	24.6%	30.9%							
津波避難訓練への参加	12.5分	14.2分	×	37.1%	28.6%	△					
いずれかの訓練に参加	13.1分	14.3分	×	31.7%	29.4%	×					
直後対応	真っ先	次に	余裕		真っ先	次に	余裕				
	9.1分	13.1分	15.0分	○	49.0%	29.2%	27.6%	○			
津波避難	タイミング	できるだけ早く	注意報	警報	○	できるだけ早く	注意報	警報	○		
		10.3分	13.9分	14.1分		39.3%	29.6%	27.0%			
		避難指示	家族	避難指示		家族					
		19.5分	27.2分	17.5%		27.3%					
避難時の持ち物	持ち物の数	1~2	3~4	5~6	7以上	○	1~2	3~4	5~6	7以上	○
		10.3分	12.7分	15.6分	15.8分		41.1%	36.3%	28.7%	17.8%	
	持って行く	持っていかない			持って行く	持っていかない					
	懐中電灯	14.0分	13.8分	×	26.9%	33.1%	△				
	携帯、スマホ	14.0分	12.6分	×	29.2%	42.9%	△				
	現金・財布	14.6分	11.2分	○	28.0%	38.8%	○				
	保険証・マイナカード	15.0分	12.7分	○	24.6%	36.3%	○				
	食料等	14.4分	13.5分	×	25.6%	33.7%	△				
	預金通帳・印鑑	15.7分	12.7分	○	22.7%	35.1%	○				
	入れ歯、眼鏡等	15.9分	13.1分	○	17.0%	35.5%	○				
	ヘルメット防災頭巾	15.5分	13.7分	×	21.8%	31.3%	△				
	携帯ラジオ	14.1分	13.8分	×	27.7%	31.0%	×				
	毛布布団	15.2分	13.5分	×	20.6%	32.7%	○				
	下着、防寒着	16.1分	12.8分	○	21.7%	34.3%	○				
薬	17.1分	12.3分	○	20.0%	35.2%	○					
杖、車いす等	10.1分	14.0分	×	40.0%	30.3%	×					
ペット	16.8分	13.3分	○	24.7%	31.3%	×					

有意差: ○=5%未満 △=5~20%未満 ×20%以上

5 要配慮者が家族にいる人の津波避難行動

津波危険区域に居住し、家族に要配慮者がいる人の避難行動について質問したところ、避難のきっかけについては、小学生以下の子どもがいる家庭では、揺れがあったらできるだけ早く避難を開始すると答えた人が4割を超えた。一方で、75歳以上の人が家族にいる人は、要配慮者がいないケースよりもできるだけ早く避難する割合は低いものの、津波注意報が出れば避難するという回答が多くなった。

ただし、要配慮者がいない人を除き、回答数は100未満であること留意する必要がある。

表 5.1 津波危険区域内に居住する家族の要配慮者の有無別の避難のきっかけ

上段：回答数 下段：%	n	地震で大きな揺れがあったら、できるだけ早く	津波注意報が出たら	津波警報（高い津波）が出たら	大津波警報（巨大な津波）が出たら	市町村から避難指示が発令されたら	家族や近所の人が出たら	津波で避難はしない	その他…
1. 3歳以下の幼児	19 100.0	10 52.6	2 10.5	1 5.3	0 0.0	3 15.8	1 5.3	2 10.5	0 0.0
2. 4歳以上で就学前の児童	15 100.0	7 46.7	1 6.7	2 13.3	3 20.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0
3. 小学生	42 100.0	18 42.9	7 16.7	6 14.3	2 4.8	5 11.9	1 2.4	2 4.8	1 2.4
4. 75歳以上の人	88 100.0	18 20.5	24 27.3	18 20.5	9 10.2	8 9.1	3 3.4	8 9.1	0 0.0
5. 日常生活で要介護の人	22 100.0	7 31.8	2 9.1	6 27.3	2 9.1	4 18.2	0 0.0	1 4.5	0 0.0
6. 避難の際支援を必要とする人	26 100.0	6 23.1	6 23.1	6 23.1	4 15.4	1 3.8	0 0.0	2 7.7	1 3.8
1～6集約：要配慮者がいる	160 100.0	47 29.4	33 20.6	30 18.8	15 9.4	16 10.0	4 2.5	13 8.1	2 1.3
7. 要配慮者がいない	373 100.0	88 23.6	65 17.4	81 21.7	37 9.9	41 11.0	7 1.9	50 13.4	4 1.1

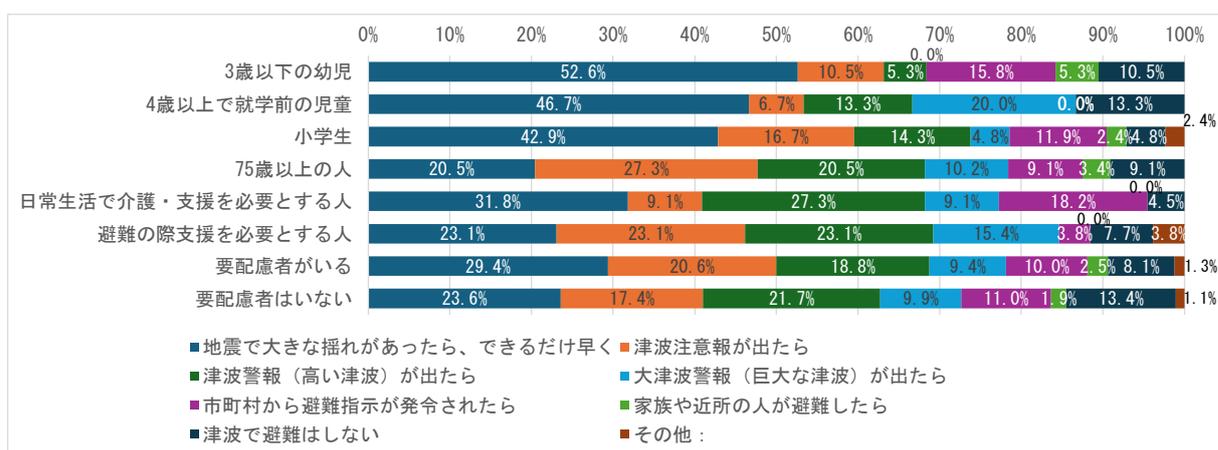


図 5.1 津波危険区域内に居住する家族の要配慮者の有無別の避難のきっかけ

避難すると回答した人の中では、3歳以下の幼児がいる家庭では、指定避難所・避難場所が6割を超えたほか、小学生がいる人を除き、要配慮者がいる人は4割を超えて、指定避難所・避難場所へ避難する意向が見られた。要配慮者がいない人には、避難する場所がないという回答が1.5%あったが、要配

慮者がいる人は避難する場所がないという回答者はいなかった。小学生がいる人は、近くの高台へ避難する割合が4割を超え、最も高かった。

こちらの回答についても、要配慮者がいない人を除き、回答数は100未満であること留意する必要がある。

表 5.2 津波危険区域内に居住する家族の要配慮者の有無別の想定する避難の場所

上段：回答数 下段：%	n	指定避難所・ 避難場所	市町村が指定した 津波避難ビル	近くの高台	津波の危険がない と思われる親戚・ 友人・知人の家	市町村が避難所と して指定していな い近くの高い建物	自宅の上階 (マンション なども含む)	その他	わからない	避難する場所 がない
1. 3歳以下の幼児	17 100.0	11 64.7	0 0.0	5 29.4	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
2. 4歳以上で就学前の児童	13 100.0	6 46.2	1 7.7	5 38.5	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
3. 小学生	40 100.0	13 32.5	4 10.0	17 42.5	1 2.5	1 2.5	3 7.5	1 2.5	0 0.0	0 0.0
4. 75歳以上の人	80 100.0	35 43.8	4 5.0	26 32.5	2 2.5	1 1.3	10 12.5	0 0.0	2 2.5	0 0.0
5. 日常生活で要介護の人	21 100.0	11 52.4	1 4.8	6 28.6	0 0.0	0 0.0	2 9.5	0 0.0	1 4.8	0 0.0
6. 避難の際支援を必要とする人	24 100.0	10 41.7	3 12.5	8 33.3	0 0.0	0 0.0	2 8.3	1 4.2	0 0.0	0 0.0
1～6集約：要配慮者がいる	147 100.0	65 44.2	10 6.8	49 33.3	3 2.0	2 1.4	13 8.8	2 1.4	3 2.0	0 0.0
7. 要配慮者がいない	323 100.0	105 32.5	22 6.8	104 32.2	8 2.5	5 1.5	57 17.6	5 1.5	12 3.7	5 1.5

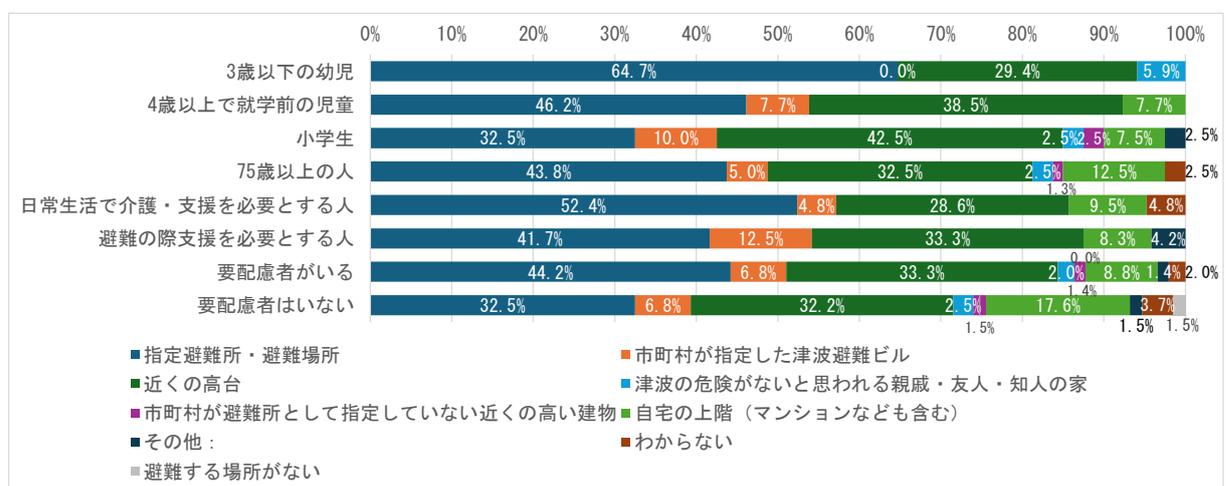


図 5.2 津波危険区域内に居住する家族の要配慮者の有無別の想定する避難の場所

最後に、津波被害により自宅被害を受け、自宅に戻れない場合に過ごす場所について、3歳以下の幼児がいる人、日常生活で介護・支援を必要とする人は、いずれも7割を超えて、指定避難所・避難場所で過ごす人と答えた人が多かった。4歳以上で就学前の児童や小学生がいる人は1割強の割合で、近くの公園等での野営や車中泊をすると答えた人がいるが、日常生活で介護・支援を必要とする人で近くの公

園等での野営や車中泊をすると答えた人はおらず、他の要配慮者がいる人も要配慮者がいない人より割合は低かった。

こちらの回答についても、要配慮者がいない人を除き、回答数は100未満であること留意する必要がある。

表 5.3 津波危険区域内に居住する家族の要配慮者の有無別の自宅に戻れない場合の過ごす場所

上段：回答数 下段：%	n	指定避難所・避難場所	近くの公園等で野営または車中泊	近くの親戚・知人宅等	自宅近くのホテル・旅館等	近くの民間施設・ビル等	勤務先の施設	被災地域外の親戚・知人宅等	被災地域外のホテル・旅館等	その他…
1. 3歳以下の幼児	19 100.0	14 73.7	1 5.3	2 10.5	0 0	2 10.5	0 0	0 0	0 0	0 0
2. 4歳以上で就学前の児童	15 100.0	7 46.7	2 13.3	4 26.7	0 0	0 0	2 13.3	0 0	0 0	0 0
3. 小学生	42 100.0	25 59.5	6 14.3	3 7.1	1 2.4	2 4.8	2 4.8	2 4.8	0 0	1 2.4
4. 75歳以上の人	88 100.0	58 65.9	3 3.4	5 5.7	3 3.4	5 5.7	6 6.8	3 3.4	2 2.3	3 3.4
5. 日常生活で要介護の人	22 100.0	17 77.3	0 0	2 9.1	1 4.5	0 0	1 4.5	0 0	1 4.5	0 0
6. 避難の際支援を必要とする人	26 100.0	16 61.5	1 3.8	3 11.5	1 3.8	1 3.8	2 7.7	0 0	0 0	2 7.7
1～6集約：要配慮者がいる	160 100.0	104 65	10 6.3	15 9.4	4 2.5	8 5	8 5	4 2.5	2 1.3	5 3.1
7. 要配慮者はいない	373 100.0	234 62.7	21 5.6	36 9.7	9 2.4	9 2.4	31 8.3	12 3.2	14 3.8	7 1.9

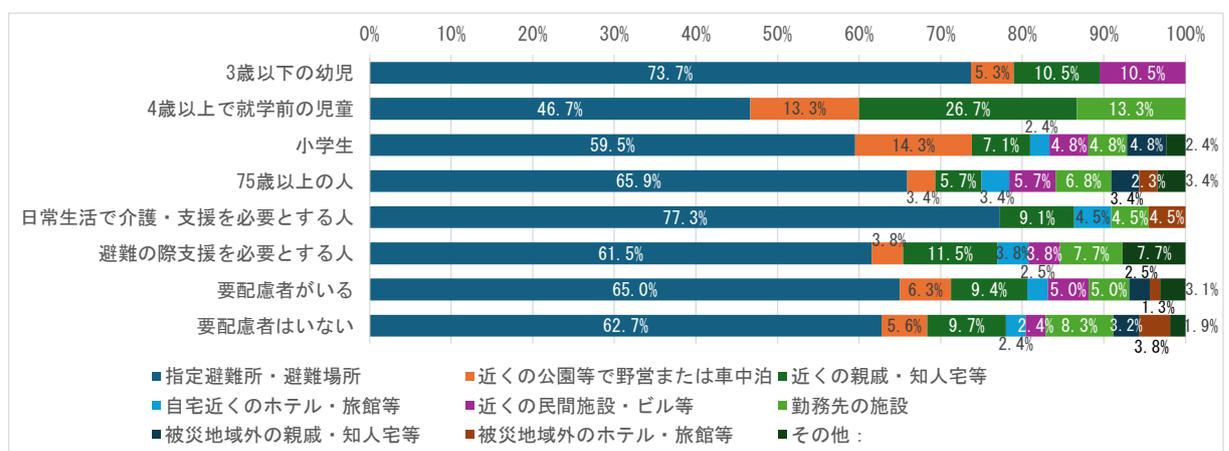


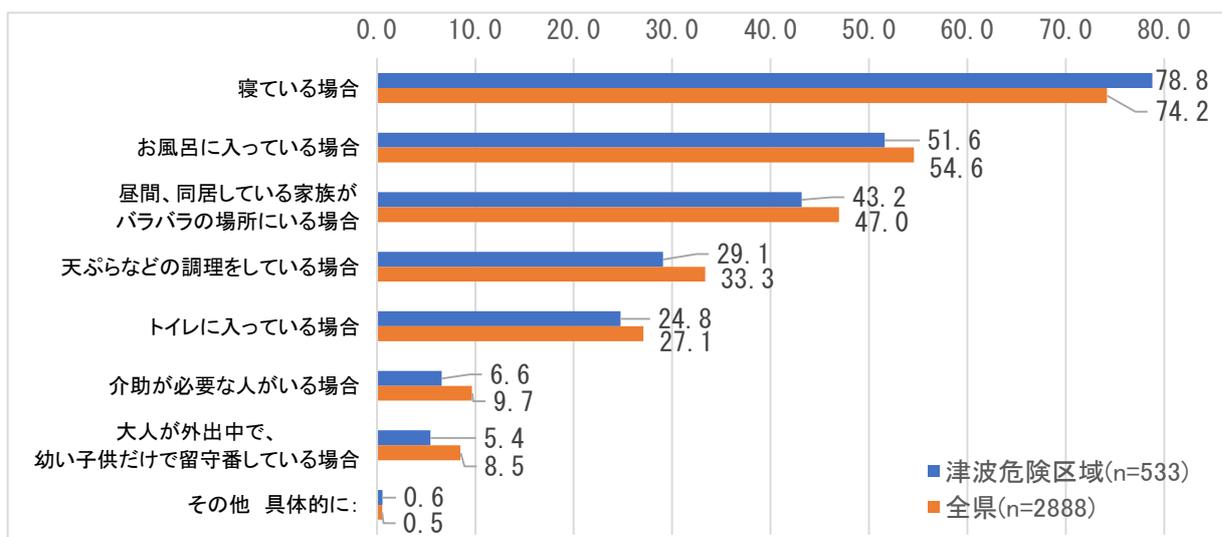
図 5.3 津波危険区域内に居住する家族の要配慮者の有無別の自宅に戻れない場合の過ごす場所

6 県民が地震災害時に想定しておきたい場面

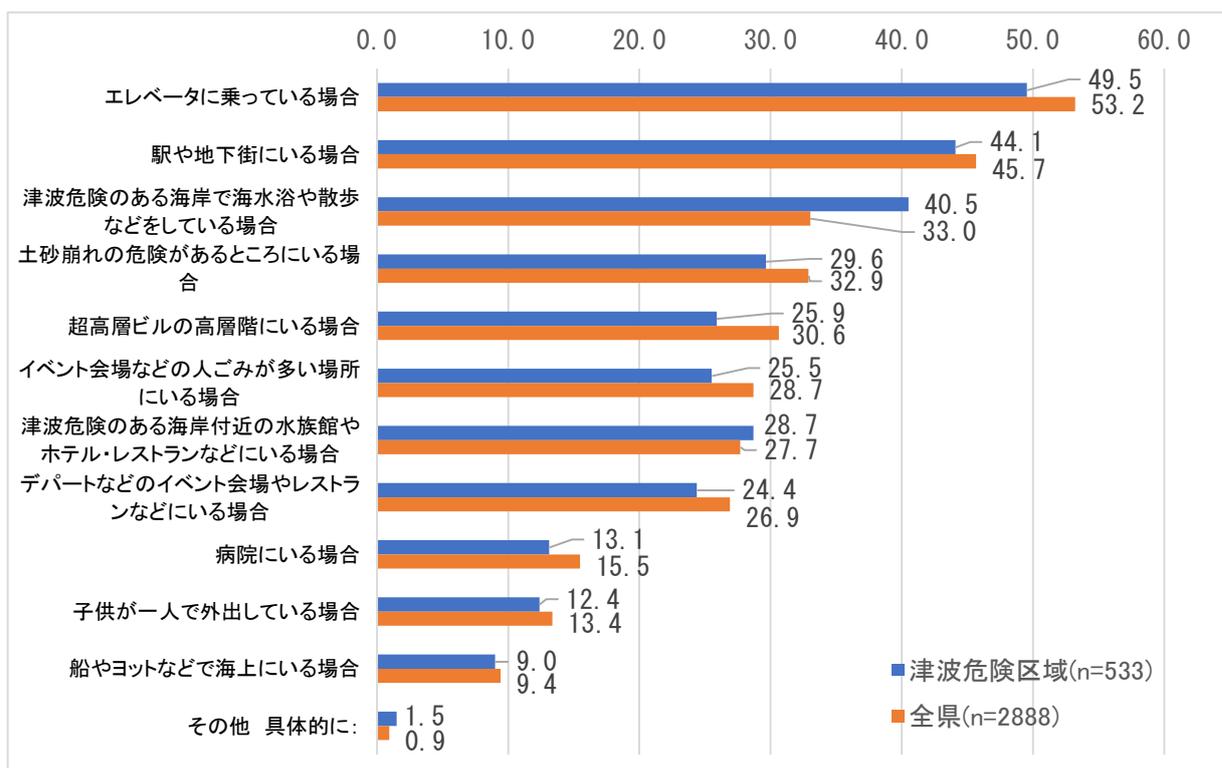
令和6年地震と津波についての調査から、神奈川県民が地震災害時に想定しておきたい場面として得られた回答を次に示す。

Q34. 大地震は、いつどこで起きるのかまったく分かりません。そのため大地震に備えるには、いつ、どこで大地震に遭遇し、どのような事態になっているかを想定し、対応を考えておく必要があります。大地震発生時に、以下の場面（自宅、外出中、移動中、被害を受けた）にご自身又はご家族が遭遇した場合、事前の対応方法を想定しておいた方が良いと思う場面（状況）はありますか。（1つ以上いくつでも）

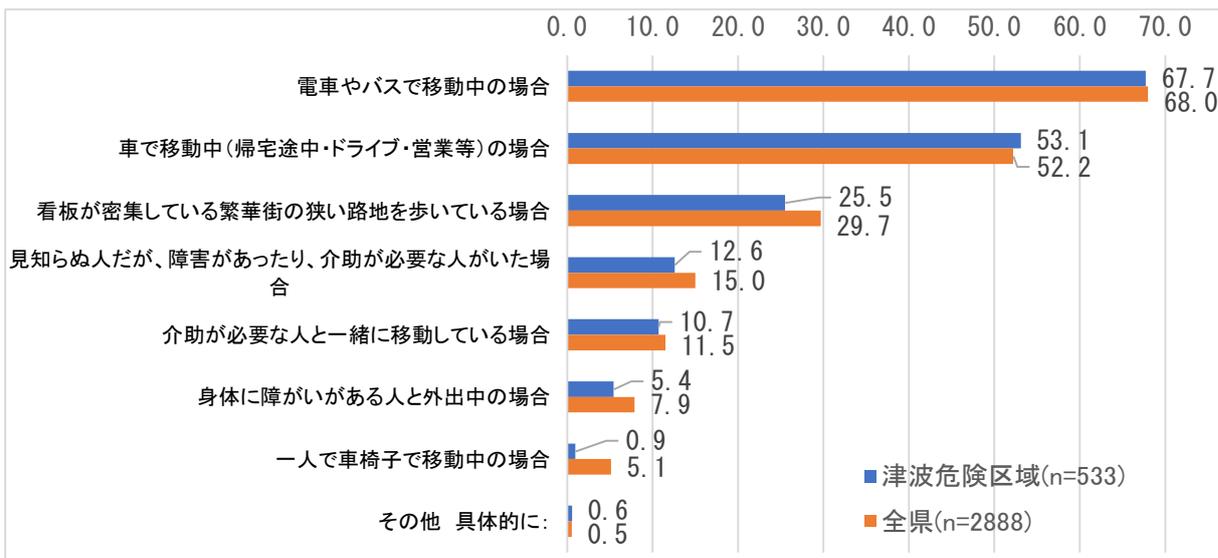
Q34-1. 自宅にいる場面（単位：％）



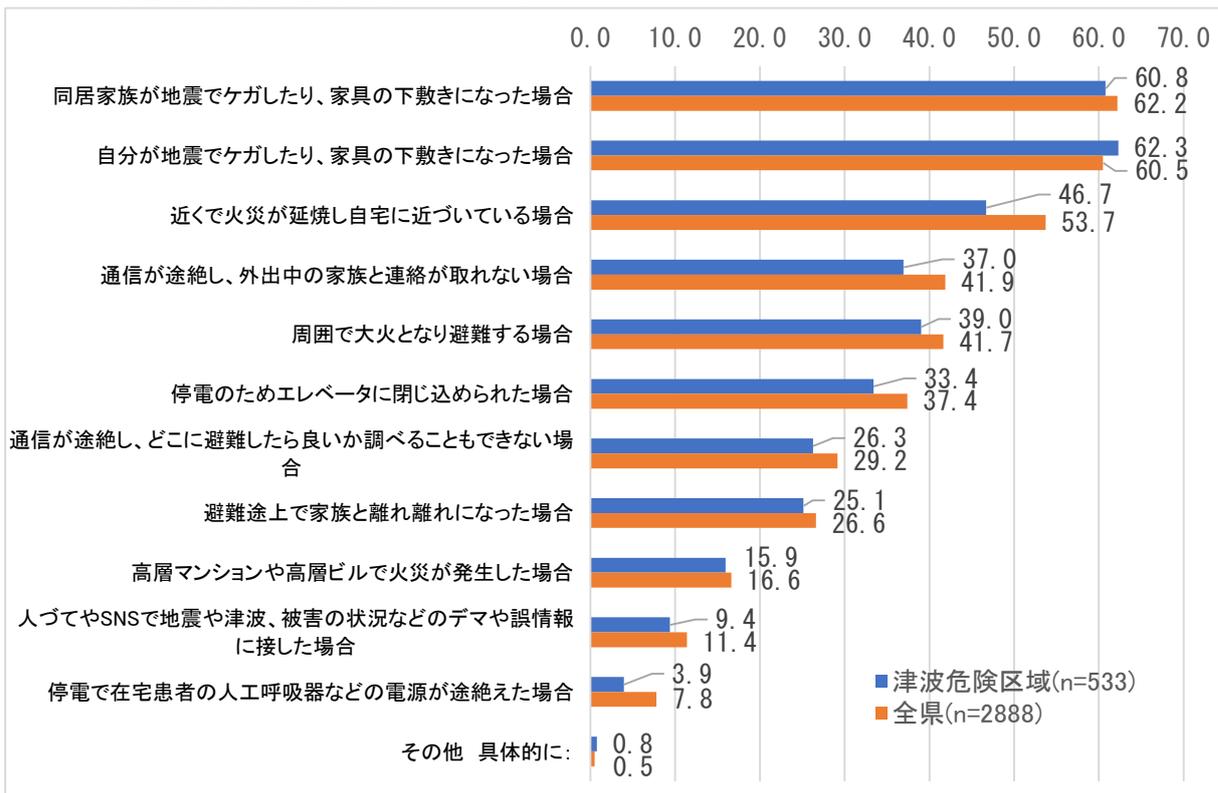
Q34-2. 外出先にいる場面（単位：％）



Q34-3. 移動中の場面（単位：％）



Q34-4. 被害を受けた場面（単位：％）



7 県民アンケート集計結果

以下に県民アンケートの各設問についての集計結果を示す。

SC1. あなたの現在の住所を、郵便番号でお答えください。SA

	n / %	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	鎌倉市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市	三浦市	町三浦郡葉山	中郡大磯町	中郡二宮町	鶴足町柄下郡真	河足柄下郡湯
津波危険区域	533 100.0	97 18.2	6 1.1	80 15.0	13 2.4	62 11.6	125 23.5	16 3.0	18 3.4	33 6.2	11 2.1	19 3.6	20 3.8	11 2.1	12 2.3	10 1.9

SC2. あなたが現在お住まいの市町村をお答えください。SA

	n / %	津波危険区域	横浜市	川崎市	相模原市	横須賀三浦	県央	湘南	県西
津波危険区域	533 100.0	533 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
全県	2888 100.0	0 0.0	1154 40.0	499 17.3	246 8.5	226 7.8	282 9.8	378 13.1	103 3.6

■あなたご自身のことについて、お答えください。

Q1. あなたの性別をお答えください。SA

	n / %	男性	女性	えそ たの く他 ない 答
津波危険区域	533 100.0	336 63.0	194 36.4	3 0.6
全県	2888 100.0	1506 52.1	1360 47.1	22 0.8

Q2. あなたの年齢をお答えください。（半角数字でご記入ください）

	n	平均 値	最 小 値	最 大 値
津波危険区域	533	56.91	21.00	88.00
全県	2888	52.79	18.00	89.00

年代

	n / %	1 8 - 1 9 歳	2 0 代	3 0 代	4 0 代	5 0 代	6 0 代	7 0 代 以上
津波危険区域	533 100.0	0 0.0	9 1.7	37 6.9	100 18.8	167 31.3	135 25.3	85 15.9
全県	2888 100.0	29 1.0	301 10.4	341 11.8	483 16.7	680 23.5	470 16.3	584 20.2

Q3. あなたは、現在の住所にお住みになってから何年になりますか。SA

	n / %	5年未満	5年未満 10年	10年未満 20年	20年未満 30年	30年以上
津波危険区域	533 100.0	83 15.6	63 11.8	123 23.1	128 24.0	136 25.5
全県	2888 100.0	560 19.4	366 12.7	641 22.2	596 20.6	725 25.1

Q4. あなたのご職業をお答えください。SA

	n / %	い業自 業営 者者 (一(家 家業主 業手・家 伝族 手従	ム勤 まめ た人 たは(フル パート タイ	ま主 た婦 は・主 パ夫 ー(専 ト業	学 生 ・ 生 徒	無 職 ・ 年 金 生 活 者	記そ 入の ：他 具 体 的 に
津波危険区域	533 100.0	49 9.2	277 52.0	79 14.8	2 0.4	117 22.0	9 1.7
全県	2888 100.0	184 6.4	1544 53.5	524 18.1	80 2.8	521 18.0	35 1.2

Q5. 同居しているご家族は何人いますか。ご本人も含めてお答えください。SA

	n / %	居) 1 人 (独	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以 上
津波危険区域	533 100.0	98 18.4	199 37.3	127 23.8	83 15.6	23 4.3	3 0.6
全県	2888 100.0	529 18.3	1085 37.6	704 24.4	431 14.9	104 3.6	35 1.2

Q6. あなたご自身も含め、同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか。あてはまるものを選んでください。(いくつでも)

	n / %	3 歳 以 下 の 幼 児	入 学 前 以 上 の 子 で 小 学 校	小 学 生	7 5 歳 以 上 の 人	人 支 日 援常 を生 活を 必活 要で と介 す護 る・	要 避 と難 すの 際支 援を 必	上 記 の 人 は い な い
津波危険区域	533 100.0	19 3.6	15 2.8	42 7.9	88 16.5	22 4.1	26 4.9	373 70.0
全県	2888 100.0	135 4.7	94 3.3	206 7.1	427 14.8	129 4.5	86 3.0	2026 70.2

Q10. 大地震が発生し、交通が途絶、停電が続く中で、家族全員が現在ご自宅にある食料（冷蔵庫や買い置き、非常用備蓄などすべてを含む）と飲料水（買い置きや非常用備蓄を含む）で、何日くらいもつと思いますか。SA

	n / %	1日	2日	3日	4 ～ 5日	6 ～ 7日	8日 以上	持たない （食料や飲料水の買い置き）
津波危険区域	533 100.0	40 7.5	89 16.7	192 36.0	86 16.1	56 10.5	24 4.5	46 8.6
全県	2888 100.0	170 5.9	505 17.5	984 34.1	526 18.2	321 11.1	141 4.9	241 8.3

Q11. あなたのご家庭では、大地震が発生してご自宅の水洗式トイレが使えなくなった時、家族全員が災害時に使える簡易トイレや携帯トイレ等を使って、何日くらい持ちこたえられると思いますか。SA

	n / %	1日	2日	3日	4 ～ 5日	6 ～ 7日	8日 以上	持たない （簡易トイレや携帯トイレ）
津波危険区域	533 100.0	61 11.4	81 15.2	103 19.3	48 9.0	21 3.9	16 3.0	203 38.1
全県	2888 100.0	330 11.4	438 15.2	552 19.1	252 8.7	136 4.7	92 3.2	1088 37.7

Q12. あなたの家では、大きな地震が起きたときに役立つ対策として、どのような対策をとっていますか。
(いくつでも)

	n / %	非常持ち出し品、非常用備蓄、買い置き	消火器の設置・点検	風呂やバットボルトなどに水をため置きしている	感震ブレーカーの設置	停電対策（電気自動車や太陽光発電）	地震時の家族の連絡方法や避難先に確認	ハザードマップ（津波浸水危険箇所）	神奈川県の津波浸水危険箇所	で災害危険を回避する	市町村が発行している避難場所・避難所	地震直後の避難について家族の話	地震保険や地震共済保険等への加入	その他 具体的に：
津波危険区域	533 100.0	289 54.2	109 20.5	178 33.4	26 4.9	43 8.1	107 20.1	222 41.7	209 39.2	106 19.9	196 36.8	22 4.1		
全県	2888 100.0	1647 57.0	684 23.7	995 34.5	219 7.6	253 8.8	577 20.0	726 25.1	975 33.8	512 17.7	910 31.5	84 2.9		

Q13. あなたのお宅は、地域の自主防災組織（町内会・自治会、マンション管理組合などが中心となり、地域の住民が防災活動をする組織）に入って、活動していますか。SA

	n / %	入 っ て お り 、 活 発 に 活 動 し て	入 っ て お り 、 あ る 程 度 活 動 し	入 っ て い る が 、 活 動 し て い な	入 っ て い な い	防 災 組 織 が あ る か ど う か わ か ら な い	自 主 防 災 組 織 が あ る か ど う か わ か ら な い	町 内 会 や 自 治 会 に 入 っ て い な い	町 内 会 （ 自 治 会 ） が な い
津波危険区域	533 100.0	15 2.8	91 17.1	156 29.3	154 28.9	94 17.6	23 4.3		
全県	2888 100.0	61 2.1	486 16.8	710 24.6	884 30.6	551 19.1	196 6.8		

Q14. あなたはこの数年、次のような防災訓練等に参加しましたか。（いくつでも）

	n / %	地 域 の 津 波 避 難 訓 練	火 災 避 難 訓 練	初 期 消 火 訓 練	救 出 ・ 救 助 訓 練	を 使 っ た 心 肺 蘇 生 訓 練 （ A E D ）	応 急 救 護 心 肺 蘇 生 訓 練 （ A E D ）	負 傷 者 の 搬 送 訓 練	避 難 所 開 設 ・ 運 営 訓 練	（ 帰 宅 困 難 者 対 策 訓 練 ） （ 徒 歩 帰 宅 訓 練 ）	シ エ イ ク ア ウ ト 訓 練	防 災 に 関 する ゲ ー ム な ど	そ の 他 具 体 的 に ：	参 加 し て い な い 防 災 訓 練 に
津波危険区域	533 100.0	93 17.4	61 11.4	45 8.4	5 0.9	44 8.3	12 2.3	14 2.6	3 0.6	9 1.7	18 3.4	3 0.6	355 66.6	
全県	2888 100.0	97 3.4	342 11.8	309 10.7	93 3.2	315 10.9	52 1.8	95 3.3	26 0.9	46 1.6	64 2.2	30 1.0	2082 72.1	

Q15. あなたが、深夜、ご自宅で寝ていた時、突然、激しく大きな揺れに襲われ（神奈川県内の震度6弱～震度7）その揺れが1分くらい続いたとします。大きな揺れが収まった直後、あなたは以下のようなことをしますか。ただし、停電していて周囲は真っ暗だとします。以下の項目のそれぞれに、あなたが「真っ先にする」、「次にする」、「少し余裕が出たらする」、「しない」のいずれかでお答えください。※アイテム「14.その他」は任意回答です。特にない場合は回答せずに、そのまま次の質問へお進みください。誤って回答された場合は「なし」と記載の上、「4.しない」をお選びください。

1. 自宅内や周囲にいる家族などの無事を確認する SA

2. 家族の身を守ってかばう SA

	n / %	真 っ 先 に す る	次 に す る	出 た し 余 裕 が あ る	し な い
津波危険区域	533 100.0	387 72.6	51 9.6	60 11.3	35 6.6
全県	2888 100.0	2083 72.1	293 10.1	336 11.6	176 6.1

	n / %	る真 つ先 にす	次 に する	出少 たし ら余 す裕 るが	し ない
津波危険区域	533 100.0	313 58.7	103 19.3	50 9.4	67 12.6
全県	2888 100.0	1625 56.3	580 20.1	331 11.5	352 12.2

3. 外への出口を確保する SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に する	出少 たし ら余 す裕 るが	し ない
津波危険区域	533 100.0	220 41.3	185 34.7	113 21.2	15 2.8
全県	2888 100.0	1111 38.5	1082 37.5	605 20.9	90 3.1

4. 外へ飛び出す SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に する	出少 たし ら余 す裕 るが	し ない
津波危険区域	533 100.0	53 9.9	138 25.9	224 42.0	118 22.1
全県	2888 100.0	273 9.5	712 24.7	1281 44.4	622 21.5

5. 火の元を確認したり、火の始末をする SA
灯りをとる SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に する	出少 たし ら余 す裕 るが	し ない
津波危険区域	533 100.0	287 53.8	131 24.6	92 17.3	23 4.3
全県	2888 100.0	1347 46.6	817 28.3	587 20.3	137 4.7

6. 懐中電灯やスマートフォンなどを探し、

	n / %	る真 つ先 にす	次 に する	出少 たし ら余 す裕 るが	し ない
津波危険区域	533 100.0	256 48.0	177 33.2	92 17.3	8 1.5
全県	2888 100.0	1201 41.6	955 33.1	650 22.5	82 2.8

7. 電話やメール、SNSなどで、離れた場所にいる家族や
インターネットなどで

親戚・知人の安否を確認する SA

8. テレビやラジオ、スマートフォン、イ

地震や津波に関する情報を入手する SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	533 100.0	61 11.4	95 17.8	343 64.4	34 6.4
全県	2888 100.0	385 13.3	534 18.5	1792 62.0	177 6.1

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	533 100.0	165 31.0	188 35.3	173 32.5	7 1.3
全県	2888 100.0	848 29.4	924 32.0	1039 36.0	77 2.7

9. けがをしないようにスリッパや靴などの履物を履く SA
けをする SA

10. 室内に散らばったものなどの後片づ

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	533 100.0	167 31.3	173 32.5	175 32.8	18 3.4
全県	2888 100.0	841 29.1	1002 34.7	883 30.6	162 5.6

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	533 100.0	14 2.6	28 5.3	382 71.7	109 20.5
全県	2888 100.0	77 2.7	159 5.5	2135 73.9	517 17.9

11. 避難の際に必要なものや非常持出し品を準備する SA

12. 自宅の被害状況を確認する SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	533 100.0	63 11.8	174 32.6	268 50.3	28 5.3
全県	2888 100.0	324 11.2	894 31.0	1486 51.5	184 6.4

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	533 100.0	69 12.9	112 21.0	327 61.4	25 4.7
全県	2888 100.0	313 10.8	695 24.1	1707 59.1	173 6.0

13. 近所の様子を見に行く SA

14. その他 具体的に記入 : SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	533 100.0	15 2.8	50 9.4	335 62.9	133 25.0
全県	2888 100.0	58 2.0	271 9.4	1805 62.5	754 26.1

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
津波危険区域	270 100.0	36 13.3	25 9.3	53 19.6	156 57.8
全県	1326 100.0	122 9.2	108 8.1	291 21.9	805 60.7

Q16. あなたは平日の昼間、自宅にすることが多いですか。SA

	n / %	こ と 宅 が に 多 い る	い こ と 宅 は に 少 い な る
全県	2888 100.0	1518 52.6	1370 47.4

Q17. それでは、あなたが平日の昼間、自宅にいた時に、突然、大きな揺れに襲われ（神奈川県内の最大震度6強～7）、その揺れが1分くらい続いたとします。揺れが収まった後、あなたはどのような行動をとりますか。以下の項目のそれぞれに、あなたが「真っ先にする」、「次にする」、「少し余裕が出たらする」、「しない」のいずれかでお答えください。※アイテム「10. その他」は任意回答です。特にない場合は回答せずに、そのまま次の質問へお進みください。誤って回答された場合は「なし」と記載の上、「4. しない」をお選びください。

1. 自宅の被害状況を確認する SA

	n / %	る 真 っ 先 に す	次 に す る	出 少 た し ら 余 す 裕 る が	し な い
全県	1518 100.0	629 41.4	368 24.2	487 32.1	34 2.2

2. 近所の様子を見に行く SA

	n / %	る 真 っ 先 に す	次 に す る	出 少 た し ら 余 す 裕 る が	し な い
全県	1518 100.0	41 2.7	304 20.0	922 60.7	251 16.5

3. 海や川の様子を見に行く SA

	n / %	る 真 っ 先 に す	次 に す る	出 少 た し ら 余 す 裕 る が	し な い
全県	1518 100.0	17 1.1	55 3.6	228 15.0	1218 80.2

4. 近くに住む親や親戚・知人などの様子を見に行く SA

	n / %	る 真 っ 先 に す	次 に す る	出 少 た し ら 余 す 裕 る が	し な い
全県	1518 100.0	50 3.3	194 12.8	719 47.4	555 36.6

5. 家族が帰ってくるのを待つ SA

	n / %	る 真 っ 先 に す	次 に す る	出 少 た し ら 余 す 裕 る が	し な い
全県	1518 100.0	251 16.5	468 30.8	459 30.2	340 22.4

6. 職場に向かう SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
全県	1518 100.0	10 0.7	36 2.4	169 11.1	1303 85.8

7. 幼稚園や保育所、学校などに子供を迎え（引き取り）に行く SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
全県	1518 100.0	134 8.8	128 8.4	144 9.5	1112 73.3

8. 近くの食料品店や雑貨店などで必要なものを買う SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
全県	1518 100.0	77 5.1	254 16.7	922 60.7	265 17.5

9. 余震や火災、地盤災害などの危険があるので、自宅から避難する SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
全県	1518 100.0	211 13.9	361 23.8	549 36.2	397 26.2

10. その他の行動をとる 具体的に記入：SA

	n / %	る真 つ先 にす	次 に す る	出少 たし ら余 す裕 るが	し な い
全県	400 100.0	72 18.0	57 14.3	75 18.8	196 49.0

Q18. もし、地震による大きな揺れの後、あなたのご自宅の近くで火災が発生した場合、どのタイミングで避難しますか。（ひとつだけ）

	n / %	付近の火災に避難する	市区町村から避難指示が出たら	近所の人が避難を始めたなら	家など目撃に火災が迫り、隣	火の粉が飛んで来たり、隣	避難しない危険が迫るまで	消火や延焼防止活動を行	避難しない	火災危険が迫っても絶対に	その他 具体的に：
全県	2888 100.0	1410 48.8	374 13.0	291 10.1	547 18.9	218 7.5	38 1.3	10 0.3			

Q18-1. どこに避難しますか。最もあてはまるものをお答えください。SA

	n / %	市区町村の広域避難指定した近	市場の避難場所・緊急避難	市区町村の避難指定した近	近所延焼危険が少ない場	近く親戚や知人宅が少な	その他 具体的に：
全県	2622 100.0	1121 42.8	640 24.4	730 27.8	107 4.1	24 0.9	

Q18-2. あなたはどのような手段で避難しますか。最もあてはまるものをお答えください。SA

	n / %	徒歩	自転車やバ	車で	その他 具
全県	2622 100.0	2354 89.8	101 3.9	162 6.2	5 0.2

Q19. 本震と思われる大きな揺れの後も激しい揺れが続いたり、火災の危険が迫るなどで自宅に留まることが難しい場合、あなたはどこで過ごすつもりですか。最もあてはまるものをお答えください。

SA

	n / %	校所・区町等）	市町村の指定した避難場所	上野公園や広場、空地、路	近所の公園や広場、空地、路	の（野営場）	自宅の敷地内または止めた付	自宅近くの親戚・知人宅等	宿泊施設	近くの民間施設・ビル等	勤務先の施設	被災地域外の親戚・知人宅等	の被災地域外のホテル・旅館等	具体的に避難する 避難先を	宅家の過ごす片付け、何と
全県	2888 100.0	1891 65.5	180 6.2	152 5.3	137 4.7	49 1.7	37 1.3	45 1.6	49 1.7	21 0.7	22 0.8	305 10.6			

Q19-1. 市区町村が指定している避難所が満員で入れない場合は、どこで過ごしますか。最もあてはまるものをお答えください。SA

	n / %	近隣の公園や広場、空地、路	自宅近くの親戚・知人宅等	自宅近くのホテル・旅館等の	近くの民間施設・ビル等	勤務先の施設	被災地域外の親戚・知人宅等	被災地域外のホテル・旅館等	具体的に記入する避難先を	その他に避難する	家で中を片付けて何とか自宅
全県	1891 100.0	678 35.9	245 13.0	130 6.9	97 5.1	69 3.6	89 4.7	48 2.5	19 1.0	516 27.3	

Q19-2. あなたが指定避難所に行かない主な理由を教えてください。（いくつでも）

	n / %	避難所ではプライバシー面で不安があるから	避難所では防犯の面で不安がある	避難所は人が多く狭いから	避難所のトイレが使いにくいから	感染症などの衛生面で不安がある	避難所ではベットと一緒にいないから	小さい子どもなどを連れていくと迷惑がかかるから	体育館での雑魚寝ではよく眠れないから	大きな余震でも車やテントの中であれれば安全だと思えるから	避難所に行くことが出来ない・要支援等のため	その他 具体的に：
全県	997 100.0	443 44.4	241 24.2	458 45.9	282 28.3	337 33.8	145 14.5	54 5.4	271 27.2	99 9.9	84 8.4	95 9.5

Q20. 深夜に大地震が発生した時、あなたは大きな揺れが収まったら、津波の襲来を恐れて避難しますか。避難する場合、あなたは何をきっかけに津波避難をしますか。SA

	n / %	地震で大きな揺れが出たから	津波注意報が出たら	津波警報（高い津波）が出たら	大津波警報（巨大な津波）が出たら	市町村から避難指示が出たら	家族や近所の人から避難指示が出たら	津波で避難はしない	その他 具体的に記
津波危険区域	533 100.0	135 25.3	98 18.4	111 20.8	52 9.8	57 10.7	11 2.1	63 11.8	6 1.1

Q21. あなたは、どこに避難するつもりですか。最もあてはまるものをお答えください。SA

	n / %	避難場所 (公民館や学校など)	市町村が指定した避難所	市町村が指定した津波避難ビル	近くの高台	家親戚・友人・知人の住居	津波の危険がないと思われ	建物	定着している避難所として高い指	市町村が避難所として指定	自宅の上階(マンション)	その他 具体的に記入：	わからない	避難する場所がない
津波危険区域	470 100.0	170 36.2	32 6.8	153 32.6	11 2.3	7 1.5	70 14.9	7 1.5	15 3.2	5 1.1				

Q22. あなたが避難する際に絶対に持っていきたい物がありますか。下にあげた中から絶対に持っていきたい物を選んでください。(いくつでも)

	n / %	懐中電灯	携帯電話・スマートフォン	現金・財布	保険証・マイナンバーカード	食料・飲料水	預金通帳・印鑑	ズボン	入れ歯、眼鏡、コンタクトレンズ	災害用伝言ダイヤル	ヘルメットや防犯ブザー	携帯ラジオ	毛布・寝袋	下着・防寒着	薬	杖や補装具、車いす	ペット	その他 具体的に記入：	何も持たずに行か
津波危険区域	470 100.0	216 46.0	435 92.6	372 79.1	244 51.9	203 43.2	185 39.4	135 28.7	55 11.7	112 23.8	97 20.6	152 32.3	155 33.0	10 2.1	77 16.4	11 2.3	8 1.7		

Q23. 地震の揺れ始めからあなたが家の外に出て避難を始めるまでに、どれくらいの時間がかかると思いますか。その際、余震が続き、物が部屋中に散乱し、停電で真っ暗な中で、家族の無事を確認したり、懐中電灯を探したり、持っていきたい物をそろえる時間なども含めてください。下の空欄に数字を記入してください。(半角数字でご記入ください)

自宅から出て津波避難を開始するまでに__分くらいかかると思う。

	n	平均値	最小値	最大値
津波危険区域	470	13.89	0.00	99.00

Q24. あなたはどのような手段で避難しますか。最もあてはまるものをお答えください。SA

	n / %	徒歩	自転車・バイク	車で	その他 具体的に記入
津波危険区域	470 100.0	378 80.4	38 8.1	50 10.6	4 0.9

Q25. 避難を始めてから何分くらいで避難先に到着できると思いますか。途中、周囲は真っ暗で建物や道路等が被害を受けている可能性があることも考えてお答えください。下の空欄に数字を記入してください。(半角数字でご記入ください)

自宅から避難先まで移動するのに、__分くらいかかると思う。

	n	平均値	最小値	最大値
津波危険区域	470	11.46	0.00	60.00

Q26. あなたは平日の昼間、自宅にすることが多いですか。SA

次に、平日の昼間、あなたのご自宅にいるときに大地震が発生した場合を考えてください。あなたが、平日の昼間、ご自宅にいた時、突然、激しく大きな揺れに襲われ（神奈川県内の震度6弱～震度7）、その揺れが1分くらい続いたとします。

	n / %	ご自宅に多い	ご自宅に少ない
津波危険区域	470 / 100.0	240 / 51.1	230 / 48.9

Q27. 平日の昼間の場合、地震の大きな揺れが収まってから、津波避難を始めるまでに、何分くらいかかるとお考えですか。SA（半角数字でご記入ください）

	n / %	1分以内に避難を開始するまで	津波で避難しない
津波危険区域	240 / 100.0	213 / 88.8	27 / 11.3

Q27. 平日の昼間の場合、地震の大きな揺れが収まってから、津波避難を始めるまでに、何分くらいかかるとお考えですか。（半角数字でご記入ください） / 1. 避難を開始するまでに__分くらいかかると思う。

	n	平均値	最小値	最大値
津波危険区域	213	12.02	1.00	60.00

Q28. 地震が昼間に発生した場合、避難を始めてから避難先に到着するまでの移動時間は、何分くらいかかるとお考えですか。次の枠内に、時間を記入してください。下の空欄に数字を記入してください。（半角数字でご記入ください）

避難先に到着するまでに__分くらいかかると思う。

	n	平均値	最小値	最大値
津波危険区域	213	10.64	1.00	60.00

Q29. 津波が襲来してあなたの自宅に浸水したり、市区町から避難指示が出されていて、自宅に戻れなくなった場合、あなたはどこで過ごすつもりですか。最もあてはまるものをお答えください。SA

	n / %	学校等） 所・避難場所（近くの小中	市区町が指定している避難	止めた車の中	路上で野営またはそこに	近くの公園や広場、空地、	近くの親戚・知人宅等	近くの民間施設・ビル等	勤務先の施設	被災地域外の親戚・知人宅	被災地域外のホテル・旅館	その他に避難する避難先
津波危険区域	533 / 100.0	338 / 63.4	31 / 5.8	51 / 9.6	13 / 2.4	17 / 3.2	39 / 7.3	16 / 3.0	16 / 3.0	12 / 2.3		

Q29-1. 市区町が指定している避難所・避難場所が満員で入れない場合は、どこへ避難しますか。最もあてはまるものをお答えください。SA

	n / %	上等の野営またはそこに止め	近くの公園や広場、空地、路	近くの親戚・知人宅等	近くの民間施設・旅館等の宿泊	勤務先の施設	被災地域外の親戚・知人宅等	被災地域外のホテル・旅館等	その他に避難する避難先を
津波危険区域	338 / 100.0	132 / 39.1	53 / 15.7	31 / 9.2	53 / 15.7	18 / 5.3	25 / 7.4	16 / 4.7	10 / 3.0

Q29-2. あなたが、指定避難所に行かない理由を教えてください。（いくつでも）

	n / %	避難所ではプライバシー	避難所では防犯面で不	避難所は人が多く狭いか	避難所のトイレが使いに	感染症などの衛生面で不	避難所ではないベツトと一緒	小さい子どもなどを連れ	睡眠館での雑魚寝ではよ	体育館から	トウから	大きな余震でも安全だと	から・行くことが大変だ	その他 具体的に：
津波危険区域	195 / 100.0	76 / 39.0	42 / 21.5	90 / 46.2	55 / 28.2	62 / 31.8	39 / 20.0	6 / 3.1	43 / 22.1	7 / 3.6	27 / 13.8	16 / 8.2		

Q30. 大地震が起きた後、あなたや同居の家族が無事であったとき、地域の人達と協力して、次のようなことができると思いますか。できると思うものを選んでください。（いくつでも）

	n / %	を、建物などがれきの中から救出する	火災の消火活動をする	けが人の応急手当をする	重症者を病院などへ車や担架などで運ぶ	近所の高齢者や介助が必要な人の避難を手助けする	駅周辺や繁華街などで、帰宅困難になつていたり人達の交通整理や支援活動をする	避難所の開設や運営を手伝う	避難した人達のために、炊き出しをする	避難所で物資を運んだり配つたりする	避難所のトイレ掃除や衛生管理をする	その他 具体的に：	自分や家族のことで精一杯で何もできない
津波危険区域	533 100.0	207 38.8	172 32.3	142 26.6	78 14.6	223 41.8	35 6.6	143 26.8	132 24.8	205 38.5	73 13.7	5 0.9	130 24.4
全県	2888 100.0	970 33.6	832 28.8	800 27.7	434 15.0	1184 41.0	186 6.4	724 25.1	665 23.0	1065 36.9	417 14.4	23 0.8	724 25.1

Q33. 地震で被災後、あなたが長期に避難する所は、具体的にどこが考えられますか。SA

	n / %	神奈川県横浜市内	川崎市内	相模原市内	横須賀三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)地区内	市、綾瀬市、愛川町、清川村)地区内	中央区内	市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	湘南(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野)	鶴町、湯河原町)地区内	町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真	県西(小田原市、南足柄市、中井町、大井	東京都内	県・栃木県・群馬県)	その他の関東圏(千葉県・埼玉県・茨城	入：それ以外の道府県 避難先を具体的に記
津波危険区域	533 100.0	98 18.4	8 1.5	3 0.6	127 23.8	8 1.5	138 25.9	27 5.1	31 5.8	44 8.3	49 9.2					
全県	2888 100.0	937 32.4	352 12.2	215 7.4	169 5.9	235 8.1	287 9.9	97 3.4	131 4.5	191 6.6	274 9.5					

Q34. 大地震は、いつどこで起きるのかまったく分かりません。そのため大地震に備えるには、いつ、どこで大地震に遭遇し、どのような事態になっているかを想定し、対応を考えておく必要があります。大地震発生時に、以下の場面(自宅、外出中、移動中、被害を受けた)にご自身又はご家族が遭遇した場合、事前の対応方法を想定しておいた方が良いと思う場面(状況)はありますか。(1つ以上いくつかも)

Q34-1. 自宅にいる場面

	n / %	寝ている場合	介助が必要な人がいる場合	トイレに入っている場合	天ぷらなどの調理をしている場合	お風呂に入っている場合	家族がバラバラしている場合	昼間、同居している家	子供だけで留守番している	大人が外出中で、幼	その他 具体的に:
津波危険区域	533 100.0	420 78.8	35 6.6	132 24.8	155 29.1	275 51.6	230 43.2	29 5.4	3 0.6		
全県	2888 100.0	2143 74.2	279 9.7	782 27.1	963 33.3	1576 54.6	1356 47.0	245 8.5	15 0.5		

Q34-2. 外出先にいる場面

	n / %	病院にいる場合	超高層ビルの高層階にいる場合	デパートなどのイベント会場	津波危険のある海岸で海水浴	津波危険のある海岸付近の水	津波危険のある海岸付近の水	船やヨットなどで海上にいる場合	土砂崩れの危険があるところ	多い場所にいる場合	子供が一人で外出している場合	エレベータに乗っている場合	駅や地下街にいる場合	その他 具体的に：
津波危険区域	533 100.0	70 13.1	138 25.9	130 24.4	216 40.5	153 28.7	48 9.0	158 29.6	136 25.5	66 12.4	264 49.5	235 44.1	8 1.5	
全県	2888 100.0	447 15.5	885 30.6	777 26.9	954 33.0	800 27.7	272 9.4	950 32.9	829 28.7	386 13.4	1537 53.2	1319 45.7	27 0.9	

Q34-3. 移動中の場面

	n / %	車で移動中（帰宅途中・ドライブ・営業等）の場合	電車やバスで移動中の場合	看板が密集している繁華街	狭い路地を歩いている	助が必要なたと一緒に移	一人で椅子で移動中の場	出身体に障がいがある人と外	あつたり、介助が必要な人	見知らぬ人が、障害が	その他 具体的に：
津波危険区域	533 100.0	283 53.1	361 67.7	136 25.5	57 10.7	5 0.9	29 5.4	67 12.6	3 0.6		
全県	2888 100.0	1508 52.2	1964 68.0	857 29.7	332 11.5	148 5.1	227 7.9	433 15.0	15 0.5		

Q34-4. 被害を受けた場面

	n / %	家具の下敷きになった場合	同居家族が地震でケガしたり、家具の下敷きになった場合	自分が地震でケガしたり、家具の下敷きになった場合	近くで火災が延焼し自宅に近づ	周囲で大火となり避難する場合	高層マンションや高層ビルで火	連絡が取れない場合	避難途上で家族と離れ離れに	められたためエレベータに閉じ込	停電の電源が途絶えた場合	通信が途絶した場所	情報に接した場所	波、被る状況などでの地震や津	人づてやS n / % Sで地震や津	その他 具体的に：
津波危険区域	533 100.0	324 60.8	332 62.3	249 46.7	208 39.0	85 15.9	197 37.0	134 25.1	178 33.4	21 3.9	140 26.3	50 9.4	4 0.8			
全県	2888 100.0	1796 62.2	1747 60.5	1552 53.7	1203 41.7	480 16.6	1209 41.9	769 26.6	1080 37.4	225 7.8	842 29.2	329 11.4	14 0.5			